

燈光





新年あいさつ

燈光会会長 岩崎 貞二

新年おめでとうございます。なかなか終わらないコロナですが、今年もコロナと付き合っていくしかない1年になりそうですね。マスクが不要で、酒を気にせず飲めて…の日が来るといいなとは思いますが、一方、コロナは人間が自然や地球に対して少しは謙虚になる反省機会だと思えばいい教訓かとも思います。でも、ウクライナのことを考えると、謙虚とか反省とかに、人間は、まだまだ、ほど遠いと考えたりしています。

灯台は、参観してくれる人が順調に回復してきました。多くの灯台ではコロナ前の水準に近づいてきました。コロナ前を超える灯台も出てきました。インバウンド比率が高かった残波岬、平安名埼、角島などはずっと低調でしたが、秋からは少しずつ増えてきています。多くの方に灯台を楽しんでもらって、体験してもらって、知ってもらって、ありがたいことだと喜んで

います。

収支も改善してきました。参観寄付金を200円から300円にしたので、コロナ前の2/3以上の参観者が来ていただくと増収になります。予断は許しませんが、2022年度は増収の可能性が高いです。

この2年間やれなかったことを少しずつやっています。老朽化している入道埼の資料館のリニューアルが終わりました、出雲日御碕の入り口の内装（下駄箱やロッカーなど）が相当古いので新しくします。灯台に来られた人が、灯台は派手ではないけれど、気持ちのいい雰囲気のところだった、不愉快になるようなことはなかったと思ってもらえるよう、できることを順次やっていければと考えています。

支所の職員も頑張ってくれています。夕暮れ参観や夜間参観、地域の灯台を支援してくれている団体とコ

ラボレーションしてのイベントなどを企画して実施してくれています。地味ですが、職員が灯台の周りに花を植えてくれたりして、灯台を明るくしてくれています。こうした努力が直ちに参観者の大幅な増加につながるとは思いませんが、燈光会が自ら努力してやっていることが、少しずつ実を結びと確信しています。

海上保安庁で法律改正され、灯台の協力団体の制度ができました。燈光会の16灯台以外の灯台でも季節限定、曜日限定ですが、参観が始まりました。

16灯台でも燈光会以外の協力団体が指定されました。こうした団体と連携して灯台に来てくれる人を増やせばいいと思います。安乗埼で志摩市の協力団体と一緒に灯台の周辺で祭りを開催するなど具体的なプロジェクトも動き始めました。

昨年11月には灯台ワールドサミットが開催されました。参観灯台がある市町村の集まりです。志摩市、御前崎市、銚子市、出雲市、男鹿市の市長、副市長とご一緒しました。各市とも灯台を活用する観光振興に熱意をもって取り組んでおられます。市も灯台に多くの方が訪れてくれるように整備をしてくれています。一

例ですが、御前崎市では灯台の周辺を公園にしていたきました。男鹿市では、灯台に来た恋人たちが記念のアイテムを飾る縁結び台を整備していただきました。これからも燈光会も一緒に連携できるプロジェクトを模索していきます。

灯台の歴史的資料の保存も頑張っています。支所等の倉庫等で眠ったままとなっていた歴史的に価値のある灯器、レンズ等の資料を犬吠埼灯台構内に展示兼保管スペースとして整備し、イベント等での一般公開やインターネットで常時公開することとしました。また、明治期に撮影された灯台写真や灯台局時代の古文書などの多くが朽ちてきており、これらを後世に伝えるための資料のデータ化も進んでいます

総会の懇談会、灯台記念日の祝賀会をずつとじていません。今年こそは開催したいと思いたすが。

燈光会にとっても、皆さんにとっても、よい年になりますように。



年頭のご挨拶

海上保安庁長官 石井 昌平

新年明けましておめでとうございます。

令和5年の年頭にあたり、平素から海上保安業務に
対するご支援・ご協力に対し、心よりお礼申し上げます。
すとともに、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

また、(公社)燈光会の皆様方におかれましては、灯
台参観事業をはじめ、航路標識に関する理解促進にご
尽力いただくとともに、海上交通の安全意識の向上に
も貢献いただいております。

さて、現在、我が国を取り巻く情勢は一層厳しさを
増しております。尖閣諸島や大和堆周辺海域における
情勢、北朝鮮情勢の一層の不透明さ、激甚化・頻発化
する自然災害など、我々が取組むべき課題は数多くあ
ります。我々は、これらの課題にしっかりと向き合い、
その責務を的確に果たしていく必要があります。

そのためにも、海上保安能力の更なる強化を図ると
ともに、関係機関との連携を強化し、法の支配の体現

者たる海上保安機関の役割をしっかりと果たしていく
所存です。

海上交通業務に目を向けますと、昨年9月には、台
風などの異常気象時に伴う船舶事故を防止し、船舶交
通の一層の安全確保を図るために一昨年に創設した
「湾外避難等勧告制度」及び「バーチャルAIS航路
標識の緊急表示制度」を初めて運用し、台風接近時の
船舶交通の一層の安全確保に寄与できたものと思いま
す。

本年は、大阪湾海上交通センターの監視・情報提供
エリアを拡大するとともに、阪神港の港内管制の統合
運用を開始することを予定しており、これにより大阪
湾北部海域の船舶交通の安全を向上させます。

さらに、海上保安庁が国際海事機関（IMO）へ提

案していた和歌山県潮岬沖の推薦航路が昨年11月に採択され、本年6月1日から運用を開始する予定としております。この推薦航路は、バーチャルAIS航路標識を活用し航路の両端及び適用範囲を明示することにより、東京湾、伊勢湾、大阪湾を結ぶ海上交通の要衝の船舶交通の整流が図られ、安全性の向上が期待されます。

また、一昨年に、地域の実情に応じた航路標識の維持管理や航路標識に関する知識の普及及び啓発を行うため航路標識協力団体制度も創設し、初年度には燈光会をはじめ23団体を協力団体として指定しましたが、本年度も10を超える団体からの応募があり、これを審査しているところです。引き続き、航路標識管理体制の充実強化や地域活性化に貢献して参ります。

一方、灯台記念日における関連行事に目を向けますと、昨年は新型コロナウイルス感染症の状況を見つつ全国各地で灯台の一般公開が実施され、また、日本財団主催により灯台の未来について考えるイベント「海と灯台サミット2022」が開催されました。このほか、灯台が立地する全国の市町村が連携し、歴史的灯

台を次世代に引き継ぐことを目的とした「灯台ワールドサミット」も3年ぶりに開催されたところでは、海上保安庁では、地方公共団体等と連携するなどし、このようなイベント等を通じて、引き続き、航路標識に関する理解促進など広く海上安全思想の普及を図って参ります。

結びに、我が国の航路標識事業の発展に貢献してこられた皆様のご努力に対して、心より敬意を表するとともに、今後の一層のご活躍を祈念いたしまして、私の年頭のご挨拶とさせていただきます。

令和4年 交通部の主な取組

海上保安庁交通部企画課

1 「航路標識協力団体」初めて指定

海上保安庁では、地域の実情に応じた航路標識管理体制の一層の充実や灯台等の航路標識を活用してもらうことを目的として、令和3年11月、航路標識法を一部改正し、航路標識協力団体制度を創設しました。航路標識協力団体（以下「協力団体」といいます。）とは、同法に基づき海上保安庁が指定した団体であり、航路標識の維持管理や航路標識に関する知識の普及及び啓発等を自発的に行う民間団体等をいいます。

協力団体が行う活動は、次のとおりです。

① 航路標識に関する工事又は航路標識の維持

例）灯台の錆落としや塗装、手すりの設置、清掃、草刈、簡易な点検など

② 航路標識の管理に関する情報又は資料の収集及び提供

例）灯台に関する歴史資料の収集、保管など

③ 航路標識の管理に関する調査研究

例）灯台の歴史調査、構造調査など

④ 航路標識の管理に関する知識の普及及び啓発

例）灯台の一般公開、歴史資料の展示、夜間活動、ワークショップ開催など

⑤ ①から④の活動に付帯する活動

例）入場料の徴収、記念品の販売など

制度創設後、初の協力団体の募集では、全国36の灯台に対して、23団体から計40件の申請がありました。その後、厳正に審査した結果、令和4年2月22日、各灯台を管理している管区海上保安本部長が23団体すべてを協力団体として指定し、指定証を交付しました。なお、協力団体の募集については、毎年1回以上行



<指定証交付>



職員手作りの
灯台レプリカキー



草刈等の活動

うこととしております。
協力団体の活動は、灯台敷地の草刈や清掃、一般公開、灯台のライトアップ、灯台周辺でのイベントの実施など、さまざまなものがあります。これらの活動が、航路標識の維持管理により一層貢献し、地域の活性化に資することを期待しています。



灯台の夜間公開

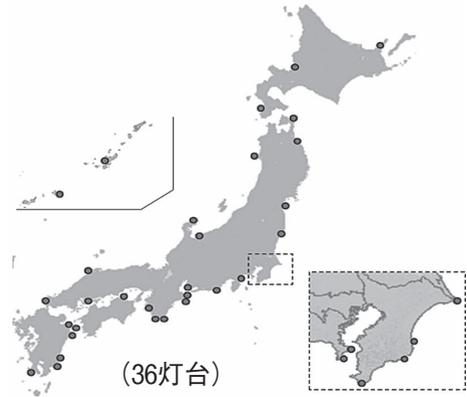


環境整備された灯台敷地

■航路標識協力団体の内訳

区分	団体数
市町村等	5
地域振興や観光振興を目的とした法人や団体等	12
航路標識事業振興関係団体	1
灯台愛好者・ボランティア団体	4
高等学校	1
合計	23

■灯台位置図

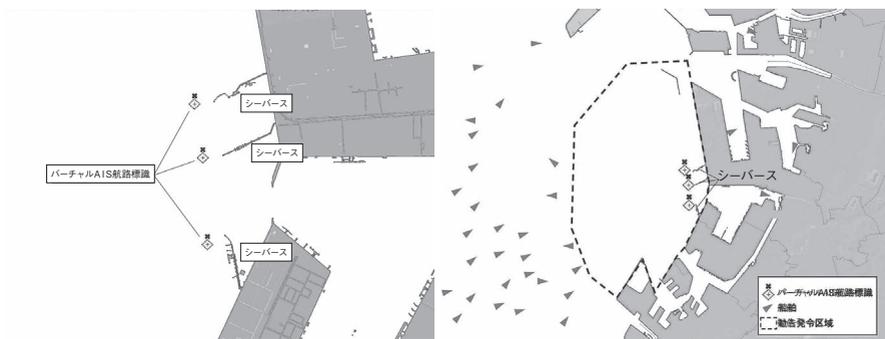


2 〈バーチャルAIS航路標識の緊急表示制度の初運用〉

令和3年7月、海上保安庁は、台風等の異常気象時における船舶の事故防止対策の一環として、バーチャルAIS航路標識を一時的に表示する制度を創設しました。

本制度は、平成30年9月、関西国際空港の連絡橋にタンカーが衝突した事故をきっかけとして、台風、津波その他の異常気象によって視界の悪化が見込まれる場合に、海上空港やシーバース（注1）、石油備蓄基地などの海上施設の付近に当該施設の管理者又は当庁が管理者に代わってバーチャルAIS航路標識を一時的に表示することで、施設への船舶衝突事故の未然防止を図るものです。

令和4年9月、大型で猛烈な強さの台風第14号が近畿地方に接近することが予測されたため、阪神港堺東北区に所在するシーバースの管理者からバーチャルAIS航路標識を当庁が管理者に代わって表示することの申出があり、船舶の避難勧告等の発令に合わせて、制度創設後初となるバーチャルAIS航路標識の緊急表示を実施しました。



2022年台風第14号接近時のバーチャルAIS航路標識表示イメージ
(実際のレーダー画面を基に作図)

緊急表示は、船舶の航海用レーダー等の画面上にあ
たかも航路標識が実在するかのようなシンボルマーク
(バーチャルAIS航路標識)を表示させて施設の存
在をみえる化し、「衝突の危険があるので施設から離
れて航行してください」「錨泊する際は、施設の周辺
を避けてください」との意図を伝えます。

バーチャルAIS航路標識を緊急表示したことなど
によって、船舶が施設に接近して航行したり、施設の
近くに錨泊することが回避され、台風の強風にあおら
れて針路を保てなくなったり走錨(注2)したりして施
設に衝突する事故を防ぐことができました。

今後も異常気象による船舶の事故を防止するため、
本制度を適切に運用し、海上交通の安全性向上を実現
します。

(注1) 大型タンカーが横付けして石油や天然ガスを荷揚げする
施設

(注2) 錨泊した状態で風浪によって錨を引きずりながら押し流
されること

3 〈灯台記念日における関係団体との連携〉

令和4年で154周年を迎えた灯台記念日において、
海上保安庁では、今年も航路標識業務への理解が広く
国民に深まることに加え、灯台が地域の方々に親しま

れるシンボルとなるこ
とを目的に、地方自治
体等と連携した灯台の
一般公開等の周知活動
を展開するとともに、
日本財団と共催で11月
1日〜8日を「海と灯
台ウィーク」と位置づ
け、メディアを利用し
た活動なども展開しま
した。

令和4年の特色とし
ては、11月5日(土)、
参観灯台が所在する4
つの自治体(志摩市、
銚子市、御前崎市、出
雲市)が発起人となり、
歴史的な灯台を観光振
興に活かす方策を議論
する「灯台ワールドサ
ミット」が3年ぶりに
静岡県御前崎市におい



石井長官応援メッセージ



御前埼灯台 (静岡県)

て開催されました。同サミットに合わせ御前埼灯台の特別公開を行い、海外からの旅行者も訪れるなど、順番待ちの行列が絶えないほどでした。

また、同日には日本財団主催の「海と灯台サミット2022」が東京(原宿)で開催され、灯台の未来をテーマに、作家、芸術家等の異分野、異業種の有識者や中高生によるトークセッションが行われ、来賓として石井長官から同サミットの取組みに対する応援メッセージを贈りました。両イベントとも大いに盛り上がり、一般の方々の灯台への関心の高さが見受けられました。



灯台写真パネル展 (鹿児島県)



室戸岬灯台まつり (高知県)

令和4年も新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行いつつも、灯台記念日関連行事を昨年以上に精力的に展開し、結果として、「海と灯台ウィーク」期間中において、前年比約2倍の2万4千人を超える方々に、全国各地の灯台や各種施設で行った様々なイベントにご来場いただくなど、154回目を迎える灯台記念日を全国各地で祝いました。

4 全国初の指向灯LED化(千倉港指向灯)

海上保安庁では、航路標識の老朽化が進展し、持続可能な維持管理が重要となる中、限られた人員で対応する体制を構築するため、長寿命かつ省電力である高輝度LEDの導入等の新技術を活用した航路標識メンテナンスの高度化のための取り組みを進めています。令和4年3月、海上保安庁の所管する指向灯において

全国で初めてとなる高輝度LEDを使用した指向灯用灯器を千倉港指向灯(千葉県)【写真1】に整備しました。



写真1 千倉港指向灯へのLED化

従来の指向灯は、光源にハロゲンランプを使用しており、光学系の構造は、楕円反射鏡の第一焦点に光源を反射し、第二焦点に色フィルタを介し、レンズ通過後にフィルタの映像を遠方に投射させる光学的原理によるものです。【図1】主にプロジェクターで使用されている原理と同じです。この原理は、フィルタを介するため、ランプそのものの光力を活かすことができず、有色光である赤光及び緑光が大幅に減光し、白光とそれぞれの光の境目がわかりにくいことと、狭い光帯角を作ることが難しいという欠点がありました。

昨今、自動車のヘッドランプも高輝度放電灯（HIDランプ）から高輝度LEDへ移行しており、国内外において、ハイパワーの高輝度LEDが開発され販売されています。今回、新規導入した指向灯には、白色・赤色は米国産を、緑色は国産を使用しています。この灯器の光学系の構造は高輝度LEDが持つ光束力を活かし、LED専用レンズを介し、灯器内部に光帯角を作るための遮蔽板をそれぞれ設け、放射するという至って簡易な光学的原理によるものです。【図2】各色（緑、白、赤）の光学系が単独ユニットであることから、色光の境目をはっきりと視認することが可能となりました。

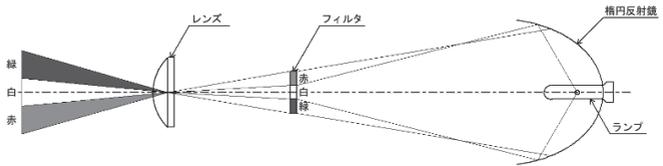


図1 ランプによる光学的原理

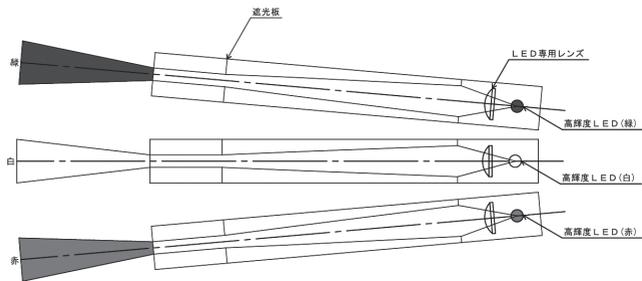


図2 高輝度LEDによる光学的原理

2号機として、令和5年中に伏木指向灯に整備予定で、これにより従来のハロゲンランプを光源とした指向灯のLED化は全て完了します。
引き続き省電力化及び作業の効率化を図るため、新たな光源の導入を検討してまいります。

5 〈ウイズコロナ時代の諸外国との交流〉

令和元年末から拡大した新型コロナウイルス感染症の世界的流行に伴い、外国への移動が制限されたため、海上保安庁においても、国際会議など諸外国との関係構築の面で大きな影響を受けました。

とりわけ令和2年から令和3年にかけては、オンライン会議の試みが世界中で広がり、国際会議の様式がオンラインに置き換わっていく一方で、各国間の時差による会議時間の制約、各国関係者との交流や継続的な人脈構築の困難さ、細かい議論の難しさなどのオンライン会議の課題が明らかになり、対面会議の有効性が再認識されました。

コロナ禍3年目となった令和4年は、感染症に対する世界の向き合い方が変わり、少しずつコロナ禍に順応していったことにより、対面会議も再開されるなど従来の国際交流の姿を取り戻し始め、当庁も本格的に海外出張を再開し各種会議等に参画しました。

●令和4年に参加した国際会議

- ・3月…第42回日ASEAN海上交通ワーキンググル

ープ（オンライン）

- ・4月…国際海事機関（以下、IMOとする。）第105回海上安全委員会（オンライン）

- ・4月～5月…国際航路標識協会（以下、IALAとする。）第46回運営助言パネル及び総会論文選定委員会（フランス）

- ・5月～6月…IALA第75回理事会（デンマーク）

- ・6月…IMO第9回航行安全・無線通信・捜索救助小委員会（オンライン）

- ・9月…IALA第47回運営助言パネル会合、ブラジル総会運営委員会及びIALA第53回船舶通航サービス委員会（フランス）

- ・9月～10月…IALA第30回e-Navigation委員会、IALA第16回航路標識技術・維持委員会及びIALA第16回航路標識性能・管理委員会（フランス）

- ・10月…第43回日ASEAN海上交通ワーキンググループ（ベトナム）

- ・11月…IMO第106回海上安全委員会（イギリス）

- ・12月…IMO―国際電気通信連合（ITU）第18回合同専門家会議（IMO/ITUEG 18）

（イギリス）及びIALA第76回理事会（ブラジル）

- 令和4年に対応した研修、視察等
- 2月…JSSPP21 第三国研修「海上安全管理コース」(オンライン)
- 8月～9月… VTS管制官研修 短期コース(マレーシア)
- 9月～11月… VTS管制官研修 標準コース(マレーシア)
- 10月…IALA事務局長等との意見交換(フランス)
- 11月…ブルネイ海事港湾庁職員による情報通信施設視察(本庁及び三管区)



IALA各国理事の集合写真



VTS管制官研修(海上保安庁講義)



JSSPP21 第三国研修「海上安全管理コース」(オンライン)

6 〔第5次交通ビジョン策定に係る取組〕

海上保安庁では、平成30年に策定された第4次交通ビジョンに基づき、海上交通の安全の更なる向上のための取組を精力的に推進してきました。

一方で、近年の海上の安全を取り巻く環境は、台風、地震等の自然災害の激甚化、頻発化や、新型コロナウイルス感染症の流行を背景としたマリインレジャーの活発化、地球温暖化対策として次世代エネルギーの活用や再生可能エネルギーの利用促進、自動運航船の実用化に向けた取組の着実な進展、海上の安全に資する技

術の進展など、目覚ましく変化しています。

このように様々な環境が変化する中、新たな時代の要請に的確に 대응していくため、令和4年5月に国土交通大臣が交通政策審議会長へ「新たな時代における船舶交通をはじめとする海上の安全のための取組」について諮問し、令和5年中に交通政策審議会長より答申がなされる予定です。

海上保安庁では、答申に基づき策定された第5次交通ビジョンの施策を着実に推進し、環境の変化や新たな時代の要請に的確に対応しながら、国民生活にとって欠かせない海上の安全の確保に取り組んでいくこととしております。

これらの環境変化に対する主な取組は、次のとおりです。

〈自然災害の激甚化、頻発化への対応〉

- 大阪湾海上交通センターの監視、情報提供体制の強化の継続
- 灯台等の耐災害性の



会議開催状況

第5次交通ビジョンの主な内容

大阪湾海上交通センターの機能強化

経路の監視エリア 新たに追加エリア
大阪湾海上交通センターの監視、情報提供体制の強化の継続（2023年度以降）

VDESによる新たな情報提供の検討

VDESを用いた情報提供（船橋側のイメージ図）

WEBによる航路通報の導入

【Web導入】
通報 → 自動 → 1通報あたり約5分
通報手続き及び受付処理（イメージ図）

プレジャーボートの機関故障対策

種類	台数	割合
単独機関	17	1%
複発動機（並列）	46	4%
複発動機（縦列）	59	5%
総計	69	6%
（修理済・修理中）	123	10%
発生	124	10%

1,214台

次世代燃料船への燃料供給に対する安全対策

①燃料用LNGの積込 ②燃料用LNGの運搬 ③LNGバンカー船（LNG燃料船への燃料供給）
LNGバンカー船による燃料供給（イメージ図）

R3プレジャーボート海難種類別発生状況

破損したパネル 新品のプラグ 劣化したプラグ部品

強化の推進など

○ 次世代燃料船への燃料供給に対する安全対策

第5次交通ビジョンの主な取組内容

〈洋上風力発電の増加〉

○ 洋上風力発電設備の設置海域における安全対策

〈自動運航船の実用化の進展〉

○ 自動運航船の実用化に向けた安全対策

〈マリッジジャーの活発化、多様化〉

○ プレジャーボートの機関故障対策など

〈新たな技術の進展〉

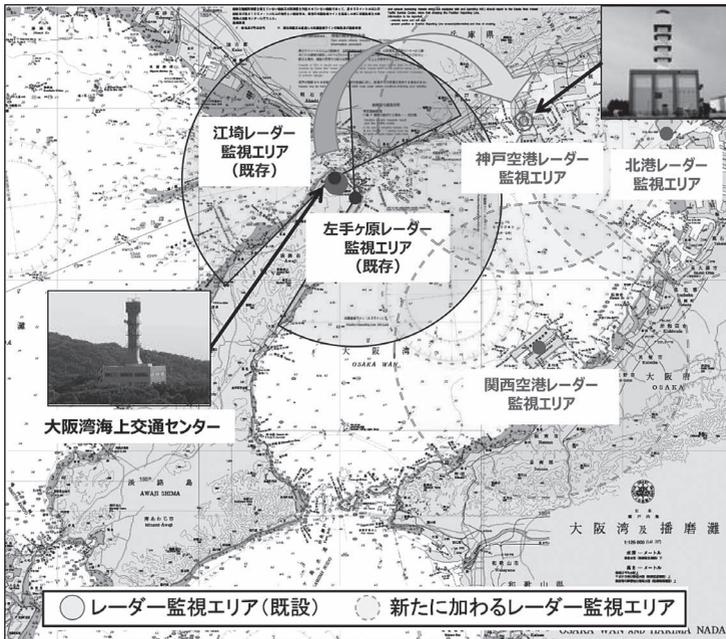
○ VDESSによる新たな情報提供の検討

○ WEBによる通報手段の導入など

7 〈大阪湾海上交通センター移転にかかる準備〉

昨今の激甚化、頻発化する自然災害への対応として、海上空港などの臨海部に立地する施設の周辺海域における走錨事故対策、異常気象等時における事故防止対策を適切に推進していくことが必要となっています。特に、平成30年9月の台風21号の影響により発生した関西国際空港連絡橋への船舶衝突事故では、空港アクセスが遮断され、人流、物流に甚大な影響を及ぼしました。

その事故を受け、大阪湾北部海域における情報聴取義務海域の拡大など船舶の監視・情報提供体制の強化に取り組むこととしており、体制強化に必要なレーダ



ーや監視カメラ等の整備を進めています。

また、広域に業務が拡大する中で、管区海上保安本部と海上交通センターのさらなる連携強化を図る必要があることから、令和5年3月までに大阪湾海上交通センターの管制機能を兵庫県淡路市から同県神戸市へ移転し、運用を開始する予定としています。

加えて、令和5年4月以降は、監視海域及び情報聴取義務海域の拡大、明石海峡航路の航路管制と阪神港の港内交通管制の大阪湾海上交通センターへの統合など、平時及び異常気象等時の船舶事故の未然防止の取組を強化することとしています。

8 〈潮岬沖推薦航路の設定について〉

海上保安庁では、平成30年1月に運用開始した伊豆大島西岸沖推薦航路の設定後、引き続き、伊豆半島から紀伊半島に至る海域の整流化対策の調査研究を実施してまいりました。

この結果、和歌山県潮岬沖において、伊豆大島西方海域と同様に推薦航路を設定することで、航行船舶の整流効果が得られるとの結論に至ったことから、令和4年6月、国際海事機関（IMO）に対して、潮岬沖への推薦航路の設定について提案を行い、令和4年11



月、IMOの第106回海上安全委員会において、「潮岬沖推薦航路」が採択されました。

同推薦航路は、潮岬灯台の南3.5海里以内を航行する船舶を対象としており、沖合い（潮岬灯台の南3.5海里以遠）を航行する船舶には適用されません。

また、運用開始は、令和5年6月1日、日本時間午前9時から予定しており、運用開始後は、海図上に航路の中心線及び航行方向が記されるほか、レーダー画面上では、航路の西端位置、東端位置及び適用海域の範囲を示す位置にバーチャルAIS航路標識のシンボルマークが表示されることとなります。

和歌山県潮岬沖は、東京湾、伊勢湾、大阪湾などを結ぶ海上交通の要衝となっており、外国船舶を含む船舶の通航量が多く、加えて漁業活動も活発な海域であり、同推薦航路の設定により、船舶交通の整流化が図られるとともに、国際的にも広く認知され安全性の向上が期待されることから、海上保安庁では、潮岬沖推薦航路における航行ルールを、船舶運航者をはじめ海域利用者に対し周知してまいります。

・推薦航路とは

海上人命安全条約（SOLAS条約）第V章第10規

則に基づき、IMOが航路を指定する制度の一つで、中心線を定めることにより、対面通航を推奨します。

9 〈マリネレジャーの安全対策について〉

近年、新型コロナウイルス感染症の影響から三密を避けることができる屋外レジャーの人气が高まり、マリネレジャー愛好者も増えています。

海上保安庁では、マリネレジャーの安全啓発を行うため、関係省庁の連携に加え、民間関係団体や関係企業にも主体的に安全啓発を行ってもらうことが重要と考えており、令和4年は次のような取組を行っています。

まず、近年では、海で遊ぶ道具もインターネット等で手軽に入手できるようになり、販売店で愛好者に直接接合する機会が少なくなりました。そのため、大手ショッピングサイトのAmazon、楽天、Yahoo! JAPANと連携して、海上保安庁で運用するマリネレジャーの事故防止の情報をとりまとめた「ウォーターセーフティガイド」のウェブサイトのリンク先をHP上に掲載することで安全情報の周知・啓発を図りました。

次に、近年事故が増加傾向のSUP（スタンドアップ・パドルボーディング）については、規制法令（船

● 海上交通センターによる情報提供、危険回避措置の勧告制度

などが創設され、特に勢力の強い台風などが東京湾、伊勢湾、大阪湾を含む瀬戸内海を直撃すると予想される場合、大型船等の一定の船舶に対し、湾外などの安全な海域への避難勧告（湾外避難等勧告）を発出することなどができるようになりました。

また、それぞれの海域に、海上保安庁、行政機関、海域利用者等からなる協議会を設置し、勧告の対象となる台風の規模など具体的な運用ルールをあらかじめ策定し、台風が実際に直撃した際に円滑かつ迅速に対応できる体制を整えました。

そうした中、令和4年9月には、非常に強い台風11号の九州・中国地方への接近を受け、同勧告を「瀬戸内海西部海域」を対象として全国で初めて発出し、さらに、大型で猛烈な台風14号が接近した際には、「瀬戸内海西部海域」、「瀬戸内海中部海域」、「大阪湾」の3つの海域を対象として同勧告を発出しました。

同勧告発出後は、管区海上保安本部や海上保安部署、海上交通センターにより、対象船舶の動静把握や安全情報を提供するなど、同勧告解除まで緊迫した状況が続きましたが、これら台風の接近に伴う大型船舶の海

難は発生することなく、一連の対応が奏功し船舶事故の未然防止に寄与しました。海上保安庁としましては、引き続き台風等の異常気象時における船舶交通の安全確保に努めてまいります。

異常な気象・海象が予想される場合の勧告・命令制度（海上交通安全法第32条）

- 特に勢力の強い台風の直撃が予想される際、大型船等の一定の船舶*に対し、湾外などの安全な海域への避難や入湾の回避の勧告を実施。
- 台風等の接近の際、湾内等にある船舶に対し、一定の海域における錨泊の自発や走錨対策の強化の勧告を実施。

*主に船体形状や大きな風圧面により風の影響を受けやすい船舶
自発としては長さ160m以上の自動車専用船、コンテナ船、タンカー、長さ200m以上の貨物船など

海上交通センターによる情報提供、危険回避措置の勧告制度（海上交通安全法第33条、第34条、港則法第43条、第44条）

- 臨海部における施設等周辺の一定の海域*において錨泊、航行等する個別の船舶に対し、走錨のおそれなど事故防止に資する情報を提供し、その情報の聴取を義務付け。
- 船舶間での異常な接近等をめめた場合に、当該船舶に対し危険の回避の勧告を実施。

*京浜港横浜・川崎沖、東京湾アクアライン周辺海域（令和4年4月1日現在）

一定の海域からの退去

錨泊の自発、走錨対策の強化

海外への避難

入湾の回避

台風

海上交通センター

異常気象等時の情報聴取義務海域

勧告：後方の船舶に接近しています。衝突を回避してください！

情報：錨泊位置が移動しています。注意してください！

臨海部に立地する施設

情報：付近船舶が走錨している可能性があります。注意してください！

それぞれの海域に設置した、海上保安庁、海軍・港湾関係者、行政機関で構成する協議会において、必要に応じて、以下について協議・調整を図る。（海上交通安全法第35条）

- 避難の対象となる台風
- 避難の時期や対象船舶
- 勧告発出時の連絡・周知の体制等

湾外へ避難させる必要がある船舶に対しては、湾外避難と海外避難の勧告・命令を海上保安庁長官が一体的に実施。

各海域や各海域において対象となる施設の詳細は「走錨事故防止ポータルサイト」をご覧ください。

走錨事故防止ポータルサイト

3年振りに海保フェアを開催

「燈光会とコラボし新旧灯火を展示」

海上保安試験研究センター

令和4年10月22日(土)、秋晴れの下、3年振りに、海上保安試験研究センターの施設公開、海上保安庁音楽隊コンサート、立川広域防災基地に所属するヘリコプター及び海保ヘリコプターの機体展示、特殊救難隊による救助訓練などを盛り込んだ「創立50周年記念海保フェア2022」を開催しました。コロナ感染が

ピークを迎えた時期に企画を立ち上げたため、一般の来場者は100名に限定し募集したところ、全国から4倍近い応募があり、このイベントに思いを寄せていただいている方が大勢いることを実感しました。施設内部の公開では、平成の初期まで灯台のレンズを製造していた加工室を活用し、明治期から最新の灯



晴天の中庭での音楽隊コンサート



演出に工夫を凝らした業務紹介



来場者の注目を浴びたヘリコプター展示



イベントを締めくくった
特殊救難隊の救助訓練



ガス灯器の仕組みを説明する燈光会藤原氏



動作説明に用いられたガス灯器及び図面



フレネルレンズを用いた回転灯器から
LED灯器までの変遷を説明



フレネルレンズとビーコンレンズの共演

器までの変遷を公益社団法人燈光会に協力をいただき紹介しました。今回の展示の目玉と言える石油灯器・ガス灯器のコーナーでは、ガス灯器の操作に精通している燈光会の藤原潔氏に、準備の段階からご尽力いただき、ガス灯器を四等レンズ内に設置して、点灯させると共に灯器の内部構造を披露していただきました。見学者らは、点滅するガス灯器を興味深く覗き込み、藤原氏による点滅の仕組みの分かりやすい説明に関心を深めていました。

その傍らでは、これまで試験センターにて実験に使用してきたLEDやビーコンレンズ、更にフレネルレ

ンズに往年の灯台の電球と最新のCOBを取付けたものを一齐に点灯回転させ、新旧の灯火を間近で見学できるコーナーを設けました。様々なレンズから、次々と放たれる光の波に、訪れた見学者から「すごい！」の感嘆の声も聞かれました。

海上保安試験研究センターが発足してから50年目の節目の年に、普段目にすることの出来ない様々な種類の灯火を、間近で見てください。灯台の歴史や魅力をお伝えできたものと思います。来年は、さらに多くの方にご来場いただき、より工夫を凝らした展示をお見せできることを目指してまいります。

最果てにて輝く灯次世代へ親子で引継ぐ

120周年記念タイムカプセル開封・封印式

釜石海上保安部交通課



釜石海上保安部では、今年点灯から120周年を迎えた鯧ヶ埼灯台の記念行事として、100周年の記念行事で20年前に地元の小学生が封印したタイムカプセルの開封式と、鯧ヶ埼灯台の近隣にある重茂小学校に通う児童によるタイムカプセルの封印式を実施しました。

この鯧ヶ埼灯台は、岩手県内随一の灯塔高、光達距離を誇る灯台で、明治期の開国と外国船の通行量増加に伴い、当時の陸中地方沿岸の灯火標識の貧弱さを解消するため、明治35年3月1日に初点を迎えました。

灯台が立つ「鯧ヶ埼」の地は、本州最東端の名に違わぬ、世間の喧騒からは全く隔絶された大自然の中にあり、渡船を使用しない場合、灯台までは直近の漁港に駐車してから徒歩で1時間以上歩かなければならない場所にあります。

「とどがさき」という地名の由来にも、「トドが群がる場所」のほか「とど（出世魚ボラの最後の姿。とど

のつまり、等の用例があるように、成れの果て、最果ての意味）」等の説があり、いかにも地の果てといった印象の場所です。

そんな鯧ヶ埼灯台にて今回、120周年記念式典を挙行するにあたっては、様々な苦難、感動があり、涙、涙の式典開催となりました…。

① イベント最大の試練 返還が困難？タイムカプセル封印時の資料がない

式典計画段階において、現在タイムカプセルに物を封印している方の情報や、何を封印しているのか、どのくらいの人数が封印したのか、封印時の式典の状況について、当部保管資料を漁って調査してみました。

しかし、当時（灯台100周年記念式典）に関する資料はほとんど東日本大震災津波で失われ、見つけたのはチューブファイル1冊と謎のディスク（のちにMOディスクと判明、平成生まれの筆者は見たことすら

ない)数枚のみ。

チューブファイルの中には、当時の記念式典と、宮古市内のホテルで大規模に開催したらしい記念祝賀会に関する記録と、拙い文字で書かれたタイムカプセル封印者の名簿が綴られていました。

封印者名簿を見ると、封印者は重茂小学校、千鶏小学校、鶴磯小学校の全校児童118名であることがわかりましたが、3校のうち2校はこの20年で廃校となっており、封印者への再接触は困難を極めることが予想され、また、封印者は現在30歳前後となり、進学や就職で県外に出ている方が大半を占め、収納物の返還は難しいと考えられました。

MOディスクについては、当時の式典映像等が保管されているものと期待して、本部情通課にデータ取出しを依頼し、取出しに成功しましたが、残念ながら参考となる資料や画像等はありませんでした…。



20年前に作品・絵画等を収納した
タイムカプセル(300ミリメートル灯ろう)

②あの場所での式典が可能なの？

先に記したとおり、鯉ヶ崎灯台は世間から隔絶された場所にあり、渡船でなければ長時間トレッキングコースを歩いて行かなくてはなりません。

まず計画時に持ち上がったのが、「来賓者を1時間以上も歩かせるのか？」という問題です。

タイムカプセルは灯台に保管しており、灯台で開催するのがベストですが、海上荒天で渡船が不可能な場合、来賓者に1時間以上歩かせることとなり、高齢の来賓もいることから現実的ではありません。

ならタイムカプセルを市街地に持っていけばよいかと思えば、タイムカプセルは300ミリメートル灯ろうを転用したものであり、かなりの重量物であるためそれも不可能です。

悪天候時は式典会場を市内に移し、中身だけを式典会場に持つていくこととして計画を進めていきました。

運よく晴れてくれれば…。

荒天時に備え、計3パターン(灯台公開あり式典灯台の場合、灯台公開あり式典市内の場合、灯台公開なし式典市内の場合)の実施要領を策定していましたが、誰もが式典前日まで、当日の好天を祈っていました。

③地元自治体担当者の腰が重い

数少ない灯台100周年記念時の記録を読み漁ったところ、どうやら当時は宮古市の全面協力のもと式典を開催したらしく、市の観光イベントとのタイアップも行われていたようでした。

計画当初、式典を通じた地域連携から自治体の全面協力に期待し、また、タイムカプセルに収納された作品の返還方法に苦慮していたことから、開封式典の主催イベントとのコラボと封印者への返還に係る協力を画策し、宮古市観光課担当者に相談するも、「市では11月にはイベントを計画していないし、鯉ヶ埼ではタイアップのしようがない」「返還についても協力する手立てがない」とのならない三連発の回答で撃沈し、前回式典のような協力を得ることはできませんでした。

④返還の救世主現る

このような逆風のなか時が過ぎましたが、式典予定日である11月6日の2か月前となったところ、一気に状況が好転しました。

荒天時の式典会場を借用する調整のため、重茂小学校を訪れた時のことでした。

校長から、「重茂の子供たちは、かなりの割合で大人になっても重茂に残っていると思います。多くは漁業関係者ですから、漁協の連絡網を活用すれば返還も可能ではないでしょうか。」鯉ヶ埼灯台は、昔から本校の遠足で必ず行く場所だと聞き及んでいます。重茂の住民には、とても親しみ深い場所ですよ」とのお言葉がありました。

若者は都会に出て、重茂半島にはほとんど残っていないだろうと考えていたことから、これには当事職員誰もが驚愕しました。

返還に向けた思わぬ糸口を見つけた私たちは、その足で漁協へ走りました。

校長の言葉は、本当でした。

いつもお世話になっている漁協の若い担当者に、タイムカプセル封印者118名の名簿を見せたところ、しばらく名簿を眺めながら、うなずいて

「タイムカプセル…それ、なんとなく覚えがあります」

「卒業生なら、私と顔見知りだし、だいたい重茂に残っています、作品ほとんど全部漁協で返還できますよ」

驚愕の言葉でした。

この方は、20年前にタイムカプセルを封印した118名の中の一人であり、この後式典終了まで、式典参加者や返還方法の調整等で多大なるご協力を頂きました。

お話を詳しく伺うと、20年前の封印者の中には現在、お子さんが重茂小学校に通っているという方も複数いることが判明しました。

それを受け、当部では、計画中の本式典に新たな付加価値を見出しました。

タイムカプセルの開封だけでなく、同じタイムカプセルに、新たに現在の重茂小学校児童の作品を封印しようというものです。

重茂小学校からも快諾を得て、当初「タイムカプセル開封式」のみであった本計画は、「タイムカプセル開封・封印式」となりました。

その後は漁協と小学校、みちのく潮風トレイルを運営する浄土ヶ浜ビクターセンターの協力により、式典開催に向けてトントン拍子で調整が進んでいきました。

ところが、式典を1週間前に控えたところ、最大にして最後の問題が立ちはだかります。

当日の渡船の可否です。

こればかりは天候によるところなので、渡船が無理

であれば灯台での式典開催はあきらめざるを得ません。

式典の1週間前に行った事前調査時は、波浪注意報が発表される状況で、船着場は磯波で沸き立っておりました。

渡船を請け負って頂いている用船者に、式典4日前から現場の状況を伺っていましたが、「今日は絶対だめだ。うねりが入ってて。6日も行けるかどうかはわかりません。」との返答でした。

予報では6日に向けて波浪は大分収まる予報とはなっていました。現場の海象は必ずしも予報通りとはいかないため、最終的には用船者の判断にゆだねることにしていました。

11月2日、3日と同様に聴取し、4日には「おそろく安全に行けると思う」5日には「明日は大丈夫。安全に渡船できると思います。20年前もこうしてお客さんを灯台まで運びました。懐かしいな。」との返答を得て、晴れて念願の灯台での式典開催を迎えることが出来ました。

式典当日は、秋晴れの爽やかな空の元、鮎ヶ崎灯台の記念一般公開と浄土ヶ浜ビクターセンターによる灯台トレッキングイベントも同時開催され、式典では、タイムカプセル封印者代表6名、重茂小学校児童代表



タイムカプセルの開封



収納作品の閲覧



児童へのタイムカプセル引継ぎ



新たなタイムカプセル封印

3名、宮古市副市长、重茂漁協組合長、重茂小学校長、浄土ヶ浜ビジターセンター事務局長、当部部长、宮古署長参列のもと、宮古市長による祝辞、タイムカプセル開封、重茂小学校児童によるタイムカプセルの封印が行われ、世代を超えて地域に愛される灯台の記念として相応しい式典とすることが出来ました。

式典の最後、タイムカプセルを封印した重茂小学校児童代表から「この灯台と、この重茂のきれいな景色、きれいな海を30年後まで残したい。30年後、在校生全員で灯台に来るのを楽しみにしています。」との言葉がありました。

今回封印を行ったタイムカプセルは30年後の鯨ヶ埼灯台150周年記念の際に開封予定です。児童の皆さんは36歳〜42歳になります。

30年後、またこの鯨ヶ埼灯台で彼らの成長を見るのが楽しみでなりません。



令和4年度灯台記念日

白洲灯台フェスティバル in 小倉城 (実施編)

若松海上保安部

前回の準備編・下(本誌令和4年11月号)に引き続き、今回は実施編についてご紹介します。

【事前周知】

人海戦術で配りまわったポスター類は各所で岩松翁の名前を出すと話は早く、沿線のJR駅や大型商業施設だけでなく、旧長崎街道沿いの老舗呉服店や大手書

店などが快く掲示(写真1~6)してくださり、事前周知がスムーズにできました。結果的にポスター及びリーフレットを配布したのは北九州市内学校関係70校、公共施設など72か所にのほり、学校関係以外は直接配布、学校関係には各郵送にて配布しました。また、前々回の準備編・上(本誌令和4年9月号)でご紹介した、(株)藤屋さんのコラボ商品である「白洲の燈」



写真1 老舗呉服店前



写真2 関門タコ料理店前



写真3 大手書店



写真4 JR駅カウンター



写真5 大衆居酒屋前



写真6 「白洲の燈」販促ビラ

にも白洲灯台に関するしおりを同封していたのですが、販売順調でイベント終了後、最終的にはトータル1,300個以上の売り上げだったようです。同じおりによって、多くの方に白洲灯台のことを知っていただくことができました。

【実施日及び実施内容】

以下のスケジュールでイベントが始まりましたが、連日晴天に恵まれ、延べ人数26300名と多くの方々にご来場いただきました。岩松翁の没後150年をトリガーにして、来年初点から150年を迎える白洲灯台をお祝いする前夜祭的なイメージでイベントを

企画し、準備期間約半年を費やしましたが、多くの方々のご協力のおかげで無事に開催し、事故なく終了日を迎えることができました。

- ◇ 10/27～28 展示物等準備
- ◇ 10/29～11/6 企画展示（小倉城1階）
- ◇ 10/30 灯台フォトコンテスト表彰式
（小倉城下しるろテラス）

紙芝居（小倉城5階）

講話（顕彰櫓・顕彰碑）

スタンプラリー（しるろテラス～顕彰櫓・

顕彰碑～小倉城1階～小倉城5階）

小学生総合学習協力：灯台にまつわ

るお話会（小倉城1階）

市立自然史・歴史博物館歴史課長に

よる企画展示説明会（小倉城1階）

展示物撤収

◇ 11/7

【実施内容】

(1) 企画展示（コンセプトは「志を貫く」～「志を受け継ぐ」～「志を伝える」）

① 志を貫く（写真7）

助左衛門さん関連：灯台建設までの願書、白洲



写真7 岩松翁ゆかりの品々

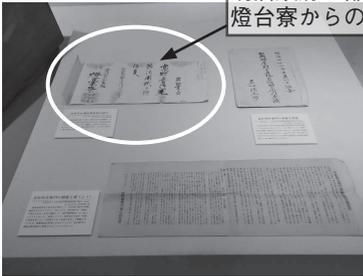


写真8 栄吉（岩松翁の次男）ゆかりの品々

測量図、燈明台設計図など

② 志を受け継ぐ（写真8）

岩松栄吉さん（助左衛門さんの次男）関連…灯台守辞令及び勤務した灯台紹介パネルなど

③ 志を伝える（写真9）

岩松徳太郎さん（助左衛門さんの孫）関連…岩松家陰徳録（助左衛門さんの業績を詳細に記載したものの）、50回忌法要写真パネル及び銅像建設趣意書など

（☆青春座（北九州市の古くからの劇団）による白洲灯台関連芝居台本など）

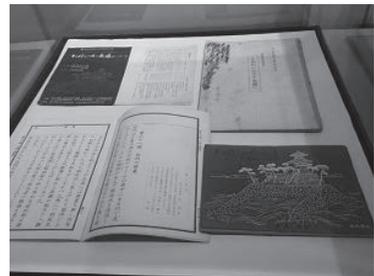


写真9 青春座の台本や国定教科書

④ その他（写真10）

初代白洲灯台（ブラントン監督による）、二代目白洲灯台及び白洲全景写真パネルや白洲灯台で使用していたフレネルレンズ及びLED灯器など

② 灯台フォトコンテスト表彰式（写真11〜16）

若松海上保安部管内の灯台などの写真を公募し、優秀作品を表彰しました。小倉城下のしるテラスというスーベニアショップ内のワークショップスペースをお借りし、優秀作品写真パネル及び前回の準備編・下（本誌令和4年11月号）で紹介した、橋川一雄さんが製作した白洲全景及び白洲灯台模型を展示し、表彰式も行いました。全部で6つの賞につき

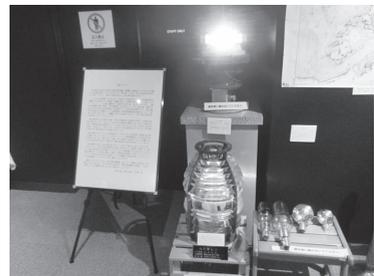


写真10 レンズや海図など



写真13 白洲灯台及び鎮魂碑模型

表彰しましたが、若松海上保安部長賞をはじめ、各協賛団体等からそれぞれ表彰していただき、盛大に執り行うことができました。併せて模型製作の橋川さんにも感謝状をお渡ししました。

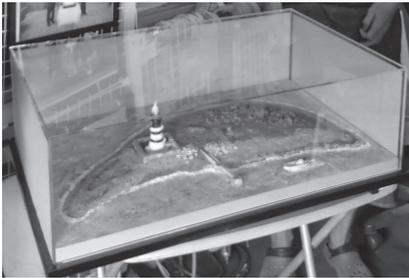


写真14 白洲全景模型



写真11 優秀作品のパネル展示



写真15 展示中の自作模型前にて感謝状を受け取る橋川さん



写真12 表彰式後のスナップ写真

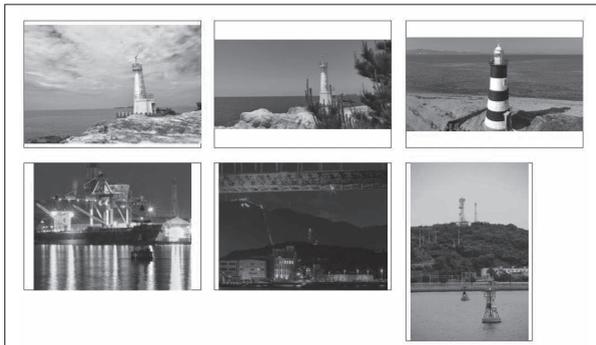


写真16 受賞作品一覧

(3) 講話 (写真17・18)

岩松助左衛門翁顕彰櫓及び同顕彰碑前にて岩松助左衛門の「世のため、人のため」の精神を伝えつつ、白洲灯台建設の苦難などについて岩松助左衛門顕彰会の方々による講話を実施しました。(※岩松助左衛門翁顕彰櫓とは前々回の準備編・上(本誌令和4年19月号)でご紹介した、北九州市の5市合併記念として建設された、岩松翁さんが建設しようとした燈明台のモニュメント)

午前と午後の2回実施しましたが、多くの方々に清聴いただき、地元の方のコメントとして、「このモニュメントが何のためにあるのか知らなかった



写真17 顕彰櫓・顕彰碑前での講話



写真18 顕彰会の方々による説明

が、知ることができてよかった。」とのお言葉を頂戴しました。

(4) 紙芝居 (写真19～22)

小倉城5Fにて「岩松助左衛門と白洲灯台」と題して、岩松助左衛門翁顕彰会の皆様による紙芝居を午前と午後の2回実施しました。

この紙芝居の絵は学校で美術の先生をされていた方が書いてくださったそうので、岩松翁の顔はイメージで書かれているようです。本当に素晴らしい絵と



写真19 小倉城5Fでの紙芝居の様子



写真20 各セリフ声優の皆様



写真21 紙芝居の表紙



写真22 紙芝居のひとつ



写真23 スタンプを楽しむ子供たち



写真24 スタンプの様子

皆さんの芝居さながらの声で、終わった直後は会場全体が感動につつまれたような空間となっていました。

(5) スタンプラリー (写真23・24)

コースは、小倉城下スーベニアショップ(しろテラス) ↓ 小倉城敷地内松の丸(顕彰櫓及び顕彰碑前) ↓ 小倉城1F企画展示ブース ↓ 小倉城5Fの順に各所にて、クイズ形式により灯台や岩松翁さんのことを学び、正解者は鍵を開けて、スタンプを取り出すことができる仕掛けでしたので、小さい子供さんから大人まで楽しむことができましたようです。

(6) 灯台にまつわるお話し (写真25・26)

総合学習の一環で展示物の見学にきた小学生に対し、灯台の役割や仕組みを紹介し、併せて岩松翁関連展示物の説明を行いました。この日は岩松翁の地元近くにある小学校の4年生約60名が訪れるということで、校長先生から説明を依頼されたことから実施したものです。交通課の高村主任航行援助管理官は〇×式の説明を織り交ぜながら、灯台の仕組みや役割を子供たちが楽しめるようにしていたことから、さっそく人気者となりました。



写真27 小学生からのお礼の手紙



写真25 職員の説明を熱心に聞く小学生たち



写真26 展示物にくぎ付けの小学生たち

小学生たちは後日、お礼の手紙が届きました(写真27)。説明者の高村主任航行援助管理官だけでなく、若松海上保安部としてもとてもうれしく、誇らしく感じました。



写真28 テレビ報道の後のため、来場者増



写真29 説明会後も質問攻めにあう歴史課長

NHKで報道された翌々日であったことから、北九州市以外の方々もお見えになっていました。

(7) 企画展示説明会(写真28・29)
北九州市立自然史・歴史博物館歴史課長(近現代史専門)による、展示品説明に併せた白洲灯台建設に関連する説明を午前と午後の2回行っていたいただきました。聴講に来られた方々はわかりやすい説明ということもあって熱心に耳を傾け、終わった後も多くの質問が出されるなど、皆さん興味を持たれた様子でした。

「イベントの振り返り」

10月30日の本イベント当日には県議会議員からの祝電をいただき、実際にイベント会場には県議会議員や市議会議員の方にもお越しいただき、第七管区海上保安本部長や次長にもご覧いただけ、若松海上保安部としてもその他協力していただいた各方面の皆様も、6か月間苦勞して開催した甲斐があったと感慨深く思った次第でした。

今回のイベントをきっかけに北九州市の文化財・観光各担当者や博物館関係者とも良好な関係を構築することができ、白洲灯台が150年の節目である来年9月1日のお祝いを令和5年の夏休み期間に北九州市立自然史・歴史博物館（愛称…いのちのたび博物館）で実施することで、少しずつ準備をしていくこととします。

この度のイベントに際しましては、第七管区海上保安本部分交通部から白洲灯台で明治34年〜平成8年まで現役で使用していた6等レンズを、また同本部海洋情報部からは明治初期の白洲が掲載された海図の写しをそれぞれお借りし、展示させていただきました。ご協力ありがとうございました。この場を借りて、お礼申

し上げます。

多くの方々にご協力いただいたおかげで当イベントを終えることができました。若松海上保安部だけでは到底成すことができないものでした。各方面の方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

「岩松翁のメッセージ」

顕彰会の方々から「岩松助左衛門の遺産」（35、36頁参照）と題した、岩松翁に関することをまとめた資料をいただきました。大変、貴重な内容ですので、ご紹介させていただきます。

若松海上保安部の「白洲灯台フェスティバルin小倉城」のご紹介は以上で終わります。長文をお読みくださり、ありがとうございました。

来年は「白洲灯台フェスティバルinいのちのたび博物館」として投稿するかもしれません。

岩松助左衛門の遺産

4 艘の蒸気船により太平の眠りから目を覚ました我が国は大きな騒乱もなく、明治新政府を樹立致しました。

新政府は富国強兵をスローガンに、近代化、工業化を急速に推し進めてまいります。

四方を海に囲まれている我が国にとって航路の安全を守る灯台の建設は最優先課題で急務であったのです、明治 2 年（1869）神奈川県三浦半島の観音崎に我が国最初の西洋灯台が建設されたのをかわきりに、下関の六連島、門司の部埼等各地に灯台が建設されていきます。

それまでの柴や菜種油を燃やすだけの灯明台や高籠堂に変わる、レンズを使用した「西洋式灯台」の建設は、我が国近代化の象徴の一つであったといえます。政府の手による灯台建設が始まる前夜、世の動きとは関わりなく灯台建設に命をかけた一人の男が居りました。その人の名を「岩松助左衛門」と言います。助左衛門は文化元年（1804）豊前の国企救郡長浜浦（現北九州市小倉北区長浜町）という漁浦に生まれました。岩松家は代々浦庄屋を勤め、助左衛門も 18 歳で庄屋を継いでおります。

当時この地は小倉藩小笠原氏の治政下にありました。

嘉永 9 年（1632）小笠原忠真が 15 万石をもって小倉に入府します。小倉藩小笠原氏初代の忠真は徳川家康の曾孫であり、正室亀姫も家康の曾孫にあたります。

このように徳川家と強い繋がりをもった忠真は、徳川幕府の九州探題の役割を担ってこの地に封ぜられたもので、以後小笠原氏はこの地を離れることなく明治に至っております。

18 歳で庄屋となった助左衛門は以後 40 年にわたりこの職を勤め、58 歳で息子に職を譲りますが、藩からは「小倉領海上御用掛難破船支配役」を命ぜられ、さらには藩の大阪蔵屋敷との間の「飛船繰り出しの役」を仰せつかっております。

岩松家は代々小倉藩が所有する五十数艘の船に必要な材木、諸用品調達の役を勤めており尚且つ漁師浦の庄屋として海事に関する専門家でもあったわけです。小倉沖の響灘は、日本海から回航する北前船や、筑前、肥前方面から瀬戸内海へ往来する船舶の通航する海上の幹線であり、幕末には年間 2 万艘もの船が航行しておりました。しかしこの海域には多くの暗礁があり、流れも速く、海の難所として船乗りから恐れられておりました。

中でも白洲と呼ばれる瀬（長さ 150m・横 100m）は航路の中心にあり、海難事故は後を絶たず多くの人命が失われております。

長浜浦の庄屋として数多くの難破船の救助に当たり、事故の悲惨さを目の当たりにした助左衛門は、航海者を守るため白洲に灯籠台を建設する決心を固めるのでした。

庄屋を辞した翌文久2年（1862）4月、小倉藩に白洲灯籠台築立願書を提出し藩の許可を得て灯籠台建設に着手することになりました。

許可は得たものの灯籠台建設は個人の事業であり、建設資金はこの海域を通る船の関係者や近隣の漁師たちの募金に頼るしかありません。

一方、助左衛門の手記に「難船の荷物船具等流失拾い取候事相楽しみ候白洲成就の上は永く難船無之に付大嫌申候」とあるように、難船の漂流物を拾得することにより生活の糧とする近隣の漁師達の猛反対を受けることになりました。そのうえ小倉藩と長州藩の戦争により企救郡が長州藩に占領される等、幕末動乱の世情に翻弄され、助左衛門の思いとは裏腹に事業は遅々として進んで行きません。助左衛門は長州藩企救郡代官に再度築立願書を提出するとともに、金子500両と米100石の貸付を願い出たのでありますが、山口藩庁は米150石の補助とさらに大庄屋2名を任命して助左衛門とともにこの事業に当たらせてのであります。

前途にわずかな光を見出した助左衛門でしたが、上司大庄屋による米の流用や下関における過剰な接待による浪費が発覚し、反対する漁民の火に油を注ぐ事態を招くことになりました。

募金活動も思うに任せず、岩松家の全財産を投じ、さらに莫大な借金を抱えたうえに近隣漁民の反対や、陰で支えてくれていた妻とみの死など幾多の困難に遭遇し、一時は助左衛門の願いも頓挫するかに見えましたが灯籠台建設に懸ける助左衛門の執念は消えることがありませんでした。

苦節8年、明治3年日田県に三度目の築立願書を提出、許可を得て3月基礎工事に着手し、同年7月完成させたのです。

その後白洲の灯籠台建設は国の事業として引き継がれ、明治5年工事が始まり翌年の明治6年9月1日白洲灯台は完成いたします。

しかし、助左衛門は前年の明治5年4月25日灯台の明かりを見ることもなく69歳でこの世を去って居ります、

白洲の灯籠台建設に命を懸けた助左衛門の心の中にあったものは何であったのでしょうか、それは“世の為；人の為”の一語に尽きるのです。

私利私欲、名誉名声を求めず、人の命を救うことのみ全精魂を傾けた人間の生き様は、助左衛門が我々に残した無言の遺書であり、伝うべき重要な遺産ではないでしょうか。

お帰りなさい！幻の絵画

〜再び観音埼灯台へ〜

横須賀海上保安部交通課

横須賀海上保安部では、令和4年11月3日に観音埼灯台の特別公開を実施しました。

今回は、観音埼灯台や観音埼公園などを中心に開催される「観音埼フェスタ」の一環として特別公開を行ったもので、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、2年ぶりの開催となりました。

当日は、天候にも恵まれ、観音埼周辺は多くの親子連れで賑わい、灯台においても、788名の来場者を記録し、多くの方に当庁の業務に触れていただくことができました。

また、今回は、横須賀ゆ



特別公開

かりの画家で、「週刊新潮」の表紙絵で広く知られている谷内六郎氏（1921—1981）の「観音埼燈台にて 波のピアノ」の複製画を灯台内に展示することとなりました。

谷内氏は、家族で観音埼をよく訪れ、灯台にもたびたび足を運ばれ、灯台職員とお茶を交わすなどの交流を深めていたとのこと。このご縁もあり、1971（昭和46）年11月には、観音埼灯台の「二日灯台長」を務め、その記念として絵画を寄贈されました。

絵画は、しばらく灯台長室に飾られ、その後の組織改編の際は、横須賀航路標識事務所長室に、現在は、燈光会の専務理事室に飾られています。

谷内氏は、波とピアノをテーマにした作品を何点か

描いており、「波のピアノは浜辺でシンフォニーをかなでています、ホフマンの舟歌や浜千鳥の青色のムードがあふれています」と書き残しています。谷内六郎の豊かな想像力を感じられる一作となっており。是非一度、観音埼灯台に足を運ばれてはいかでしょうか。

最後になりますが、複製画展示にあたりご協力いただきました、(公社)燈光会、横須賀美術館の皆様にご礼申し上げます。



絵画展示



宮城県図書館 外観



パネル展示状況

灯台絵画パネル展開催

子ども達が描く灯台絵画で笑顔になろう

第二管区海上保安本部交通部企画課

二管区交通部では、11月2日から11月11日までの間、宮城県仙台市に所在する宮城県図書館において、総務部及び海洋情報部と合同で、「第二管区海上保安本部パネル展」と題したパネル展を開催しました。

灯台記念日関連行事

宮城県図書館でのパネル展は昨年続き2回目の開催となり、交通部では、灯台記念日のイベントとして、燈光会主催の灯台絵画コンテスト2022において、東北地方の小中学校から応募のあった作品114点を燈光会からお借りし、その中から灯台に関する造詣の深い交通部職員が選んだ9点を展示しました。

応募作品は、コンテストでの入賞こそ逃しましたが、どの作品も丁寧な描かれており、灯台や色鮮やかな風景、活き活きとした表情の人物画が画角に収まり、見ている人を笑顔にしてくれるものでした。展示期間中は、多くの来館者が足を



冊子、グッズコーナー

祝 灯台記念日

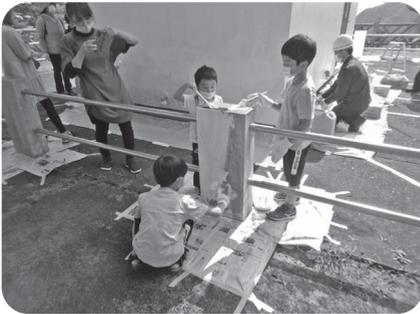
止め、絵画を通じて灯台に対する関心や親しみを抱いていただけたものと思います。

また、灯台のことを深く知ってもらうと、絵画とは別に、灯台に関連する冊子やグッズを自由に持ち帰ってもらえるコーナーを設置していたところ、展示期間終了時には、全くなくなるなど大変有意義な展示会であったことが伺えました。

二管区では、今後も灯台記念日行事など様々なイベントを通じて、灯台により一層関心を持って貰えるよう努めていきます。



来館者のパネル鑑賞状況



点灯75周年記念

普代村と共同で陸中黒埼灯台塗装を実施

釜石海上保安部交通課

釜石海上保安部では、今年点灯から75周年を迎える陸中黒埼灯台の記念行事として、地元自治体と合同での灯台塗装作業を実施しました。

この陸中黒埼灯台は、地元漁協が独自に建設した「普代灯柱」として、昭和22年4月17日に供用が開始されました。（のちに当庁に移管され、現名称に改称）

祝 灯台記念日

以来75年間、普代村の海の道しるべとして地元漁船の安全操業を支え、近年では「恋する灯台」に認定され、「燈の守り人」でオリジナルキャラクターが設定されるなど、普代村の観光の目玉としても活用されております。

しかしながら、灯台は経年により表面に細かい苔や汚れが目立ち、特に囲障はほぼペンキが剥がれ、コンクリートがむき出しとなっており昼標効果には影響がないものの少し古ぼけた印象となっておりました。

そこで今回、地域を支え、地域に愛される灯台として、今年の碁石埼灯台同様、職員と地元住民による合同塗装を計画することとなったのです。

合同塗装の計画書を普代村役場に持っていくと、村からの反応もよく、当日は村長以下村の幹部職



員十数名と地元小学生に参加いただきことになりました。

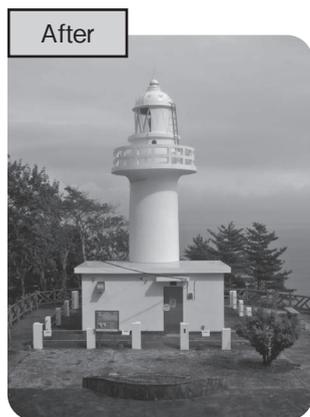
もちろん、一般の方に高所を塗っていたただくのは危険なので、職員による

高所の塗装を合同塗装の前週に実施しました。

合同塗装当日は晴天に恵まれ、灯台は見事、建設当時は

せるような真っ白な姿を取り戻しました。

陸中黒埼灯台は、これからも三陸の海の道しるべとして、また、普代村民の希望の灯として活躍していくことと思います。



安乗埼灯台・大王埼灯台を同時一般公開

鳥羽海上保安部

鳥羽海上保安部（滝田浩司・鳥羽保安部長）は、令和4年11月3日（木）午前10時から午後4時まで、昨年引き続き安乗埼灯台と大王埼灯台の同時一般公開を開催しました。

今回の一般公開は、両灯台の協力団体である志摩市灯台活用推進協議会と合同で開催したことで、対応要員、実施内容ともに充実したイベントとなり、安乗埼灯台には415名、大王埼灯台には361名で両灯台



安乗埼灯台



大王埼灯台



大王埼灯台にて参観者記念撮影

あわせて776名が灯台を訪れました。参観者には、缶バッジや灯台ペーパークラフト等の記念品を配布するとともに、パンフレット等を配布し当庁PRを行いました。今年の新たな試みとしてドローンで撮影した灯台プロモーションビデオの上映を行い、こちらも参観者の目をひきました。

今後も航路標識協力団体とともにイベントを実施し、地域観光に貢献していくこととします。



高知海上保安部長と室戸市長



開会セレモニー

「第43回室戸岬灯台まつり」を開催

高知海上保安部

天候に恵まれた令和4年11月5日(土)、高知海上保安部は室戸市観光協会と共催で、「室戸岬灯台まつり」(以下「灯台まつり」)を3年ぶりに開催しました。

灯台まつり開催に先立ち、高知海上保安部長が室戸市長を室戸岬灯台内部にご案内し同市長との親交を深めた後、午前11時から開会セレモニーが行われ、主催

者の室戸市観光協会会長、高知海上保安部長、室戸市長の挨拶に続き、高知県立室戸高校吹奏楽部が演奏を行いました。

セレモニー後は、室戸岬灯台一般公開が始まり、灯台内部では室戸岬灯台で使用しているプリズム

レンズ、灯台に関する書籍、全国の灯台写真パネルを展示し来場者の関心を集め、海保ブースでは制帽試着コーナー、パンフレット配布などを行い、海上保安庁のPRと学生募集に力を入れました。

日本最大級のフレネルレンズを見てその大きさに驚く来場者が多数いました。

室戸市等のブースでは、室戸市の歴史、アンケートコーナー、多肉腫の寄せ植え体験、おでんやコッペパンサンド等の軽食コーナーがあり、いずれも盛況でした。

また、午後には関西空港海上保安航空基地のMH687が飛行していただくことになり、来場者にサプラ



祝 灯台記念日

イズで展示飛行がある
とアナウンスすると歓
声があがるとともに、
ヘリコプターが飛来し
た時には更なる歓声が
あがり来場者は勿論で
すが当庁職員も大きく
手を振って喜んで盛り
上がりました。

灯台まつりは11時～
17時の昼の部と17時～
19時の夜の部の二部と
し、夜の部の開始セレ
モニーで地元児童によ
る1日灯台守任命と点
灯式を行い、点灯式は
点灯スイッチと灯台の
間が離れているため、
点灯スイッチ側の合図
で灯台のブレーカーを
ONにより点灯させる
という初歩的方法を用



こども灯台守家族と記念写真



MH687展示飛行

いて点灯させました。

夜の一般公開では、第
一等レンズからの光に来
場者のカメラ（最近ハス
マホで撮影）で毎10秒に
1閃光の光に併せ動画撮
影する来場者が多数おら
れ、灯台の横の旧退息所
ではランプを用いて幻想
的な照明となったことも
相まって撮影スポットとなっていました。

旧退息所は、現在、室戸市が管理しており、それら
施設の観光資源としての活用方法が課題となっていま
したが、この度、新たな灯台活用検討プロジェクト
に採択され今年から本格的に観光資源としての活用の
検討がなされ利活用が進むのではないかと地元を含め
期待しているところです。

約500名の来場者が訪れ盛況のうちに終了した室
戸岬灯台まつりですが、本来の役割である航路標識の
機能だけでなく、地域のシンボルとして観光資源とし
ての室戸岬灯台を大切に保守していきたいと気持ちを
新たにしました。



夜の一般公開



九州最古の灯台を3年ぶりに公開！

門司海上保安部

門司海上保安部が所管する部埼灯台は、今年初点灯から150周年を迎え、その記念行事として、5月25日に地元小学生に対する灯台見学会を実施、また、9月24日にはタイムカプセル開封式を開催しました。そ

して、10月30日には、同灯台で今年3回目のイベントとなる一般公開を3年ぶりに開催しました。

明治5年1月に初点灯した部埼灯台は、九州では、長崎県の伊王島灯台（明治4年7月点灯）、鹿児島県の佐多岬灯台（明治4年10月点灯）に次ぐ3番目に点灯し、現存する灯台では九州で最も古い灯台で、平成10年に「あなたが選ぶ日本の灯台50選」に選定され、平成21年には近代化産業遺産に認定、そして令和2年には国の重要文化財にも指定された我が国を代表する灯台のひとつです。

灯台の敷地内は、平成17年に発足したボランティア団体「美しい部埼灯台を守る会」による毎月の清掃活動により美化が保たれており、常にお客様を迎える環境が整っています。第七管区海上保安本部交通部と合同で開催した今回の一般公開は、154周年灯台記念日関連行事として開催しました。

灯台の構内では、プレミアム灯台カードや缶バッジ等の配布に加え、各種パンフレットにより当庁業務の紹介などを実施しました。

当日は、秋晴れで絶好の公開日和となり、遠くは青森県から来たという灯台マニアなど県内外から訪れた211名の参観者は、普段見ることの出来ない灯台内部の様子や日本唯一のレンズに感銘をうけ、灯台踊り場から眼下に広がる雄大な眺めを満喫していました。

部埼灯台の特徴等は以下のとおりです。

【灯台の特徴】

灯塔及び付属舎は花崗岩の円形石造り。花崗岩の石造りである旧職員宿舎も潮流信号所施設として再利用、歴史的建造物として保存され、令和2年12月に国の重要文化財に指定されました。付属舎、旧職員宿舎の中には洋風の暖炉が備えられ、内壁の羽目板には手書きで木目が描かれていたり、敷地には日時計の台座や庭園灯が残っており、明治政府が欧米文化の導入に力を入れていた様子が偲ばれます。

【日本唯一のレンズ】

フランス（1894年）製のレンズは、日本唯一の連成不動閃光式6面フレネルレンズで、上帯に不動レンズ、下帯に閃光レンズという複雑な構成となっているため一つのレンズから不動光と閃光という異なった

性質の光を同時

に発することが

できる珍しいレ

ンズです。連成

不動光は、現在

多くの灯台に採

用されています

が、これは光源

の電球電圧を変

動させ、閃光を

発した後の時間

に灯火を消滅せ

ず、低い光度を

維持させるもの

です。これに対し、部埼灯台は光源を一定に保ち、レンズの仕組みでこの灯質を出すようになっていきます。

【僧「清虚」の偉業】

天保7年（1836年）、下関から乗合船で高野山へ向かう修行僧「清虚」は、船が部埼沖にさしかかった際に、乗客が部埼に向かい数珠を手念仏を唱えたことから、この地が船の難所で海難が絶えないことを



日本唯一のレンズに感銘する参観者

知ります。このため、清虚は高野山行きを断念し、この地に庵を結び、船舶の安全を祈りながら終夜部埼で燈明の火を焚き続けました。この小さな灯りにより遭難を免れた船は少なくなかったといい、一生をかけたその意志は、明治の代に至るまで地元の人々に受け継がれ、洋式灯台の礎となりました。部埼の海岸には、昭和49年4月に僧「清虚」の立像が建立され今でも海の安全を願っています。



僧「清虚」の像

灯台企画展を開催

「灯台154周年に思いを馳せる」

第八管区海上保安本部交通部企画課

第八管区海上保安本部交通部企画課では、今年で154周年を迎える「灯台記念日」に併せ、10月29日(土)から11月6日(日)までの9日間、京都府の舞鶴市立赤れんが博物館にて「灯台企画展」を開催しました。

この灯台企画展は、舞鶴市と連携して例年開催されるイベントです。当管区には「れんが」を用いて建設された灯台があることから「れんが」を用いて建設された灯台があることから「れんが」を用いて建設された灯台があることと、世界の様々なレンガを展示している舞鶴市立赤れんが博物館にて例年灯台企画展を実施することとされています。

さてこの毎年開催している灯台企画展ですが、内容としては、過去に灯台で実際に使用していたレンガや、アセチレンガス灯器、世界の灯台の写真展示、さらに灯台の紹介動画や学生募集動画の放映を行うなどポリユームリーな内容で実施しています。

さらに今年

令和4年2月9日…出雲日御碕灯台と美保関灯台が

祝 灯台記念日

重要文化財に指定

令和4年10月12日…経ヶ岬灯台が重要文化財の答申を受けた

というように、当管区が誇る明治期灯台が注目を集めた年であり、上記内容に加えて今年の灯台企画展では、以下の企画を実施しました。

- ① 令和4年2月に実施した「出雲日御碕灯台、美保関灯台フォトコンテスト」の受賞作品計11点を展示
- ② 経ヶ岬灯台の重要文化財関係で、経ヶ岬灯台の模型展示や、先般完成した

開催期間等
開催期間 令和4年10月29日(土)～11月6日(日)
午前9時00分～午後5時00分
(最終受付: 午後4時30分)
※11月5日(土)・6日(日)は入館無料DAY

開催場所
舞鶴市立赤れんが博物館 2階(特別展示室)

展示内容
・灯台で使用されていたレンズ・灯器・電球各種
・明治期の灯台で実際に使用されていた灯台れんが
・世界や八管区の著名灯台の写真パネル・模型など

問い合わせ先
第八管区海上保安本部交通部企画課
0773-76-4100(内線2617)

主催: CG 第八管区海上保安本部
協力: 舞鶴市立赤れんが博物館 後援: 公益社団法人燈光会

今年の灯台企画展のポスターです。使用している画像は出雲日御碕灯台フォトコンテストで第八管区海上保安本部長賞を受賞した作品です。



出雲日御碕灯台、美保関灯台フォトコンテスト受賞作品11点の展示コーナー。

「灯台ONETップビュー経ヶ岬ver.」の紹介
パネルなど経ヶ岬灯台の紹介

各種準備にちよっぴりバタバタもしましたが、何とか無事に開催の日を迎えることができました。開催した9日間で延べ2,792名のお客様にお越しいただくことができ、特に赤れんが博物館への入館料が無料となる11月5日及び6日には1,495名の方にお越しいただきました。

お越しになられたお客様からは、「昔父親が海上保安官(灯台)で、灯台横の宿舎に住んでいました。今

日灯台の写真を
見てなんだか懐
かしい気持ちに
なりました。」

「今度経ヶ岬灯
台に行ってみよ
う」といったコ
メントをいただ
きました。また、
静かな管内で展
示物をゆっくり
と観覧されるお
客様もいらつし
ゃり、私たち職
員だけでなく、
お越しになら
れたお客様が
それぞれ灯台
に思いを馳せ
る灯台企画展
になったので
はないかと感
じています。

末尾となりましたが、公益社団法人燈光会様には本
企画展の実施に際してご協力いただきましたこと、こ
の場をお借りまして御礼申し上げます。誠にありが
うございました。



経ヶ岬灯台紹介コーナー。
経ヶ岬灯台の模型は昭和45年当時を再現
した模型です。

経ヶ岬灯台、重要文化財指定答申を受けて 3年ぶりに灯台内部を公開

舞鶴海上保安部交通課

10月29日(土)舞鶴海上保安部は11月1日の灯台記念日に併せて経ヶ岬灯台(京都府京丹後市)の一般公開を3年ぶりに実施しました。

同灯台は、10月12日に重要文化財指定の答申を受け、テレビや新聞でも大きく取り上げられ話題となるなか、灯台内部や全国でも5つの灯台でしか使用されて

いない第一等フレネルレンズが見られるというところで、開催前から事務所への問合せがあるなど、その注目度と期待の高さに交通課としても緊張しながら、灯台構内の環境整備や施設の清掃を徹底し、またコロナ感染防止



公開時の構内

祝 灯台記念日

対策として、施設内部の職員の説明は、映像やガイダンスに替えて対応することで準備を進めていきました。

当日は、すがすがしい秋晴れの下、朝早くから公開を楽しみに来られた方も多く、予定していた10時の開始時刻を前倒しするなど、旅行者に限らず地元の方々も多く見学に来られていました。

来訪者の中には、重要文化財に係る文化審議会の諮問に向け対応に当たられた京丹後市文化財保護課の職員、点灯10



施設内部



レンズ公開

0周年記念（平成10年）の際に協力して頂いた丹後町（現在の京丹後市）の職員、また、地元のゆるキャラ「こっぺちゃん」（雌カニ）も激励に来ていただきイベントを盛り上げてもらいました。

公開中は、地元ボランティア団体の「経ヶ岬灯台保存会」が駐車場の整理やイベント対応にあたっていただき、また当庁OBの方も応援に駆けつけていただく等、関係者の皆様のおかげで、計372人の方々に、明治に建てられた灯台の歴



こっぺちゃんと記念撮影



映像による灯台歴史紹介

史を改めて体感して
いただきました。

今回の重要文化財
指定答申を記念し、

第八管区海上保安本
部交通部の企画によ
り灯台を360度パ
ノラマで何時でも何
処でも体感できる

「ONEタツプビュー
ー」に経ヶ岬灯台を
追加していただきました。

保安学校在学中に滞
在実習や校外実習で
同灯台を訪れた方々
も多くおられるか
と思います。是非、
一度、ご覧いただけ
ばと思います。

<https://www.kaiho.mlit.go.jp/soshiki/koutsuu/onetapview/index.html>

(ONEタツプビューの2次元コード)



交通課職員

美保関灯台 3年ぶりの一般公開！

境海上保安部

境海上保安部では、灯台記念日（11月1日）の一環として、令和4年11月3日（木・祝日）美保関灯台の一般公開を実施しました。

美保関灯台では、例年一般公開を実施していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、2年連続で中止していたところ、今年度、3年ぶりの開催となりました。

美保関灯台の施設のほとんどは、明治31年に設置されたままの状態で現役として使用されており、その歴史的価値が高いことから、令和4年2月に国の重要文化財として指定されました。

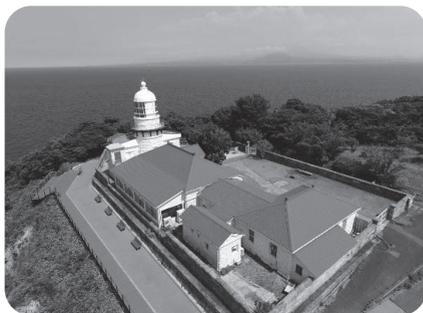


写真1 美保関灯台

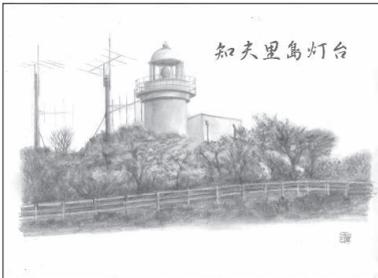
祝 灯台記念日

今回、指定後初の一般公開でもあり、保安部職員及び協力いただいた地元の松江市観光協会美保関支部職員の意気込みは高く、一般公開に臨みました。

開催が決定し、たくさんの皆さんが来ていただく為、まずは周知活動に力を入れることとしました。これまでのポスターは幾分、お堅いイメージがあることから、若手職員の柔軟な発想をフル活用し、魅力あるポスターを作成しました。

ポスター完成後は、観光協会、スパー掲示板、ラーメン屋さんにまで足を運び掲示を依頼し、また、毎月安全啓発活用でお世話になっているFMラジオでも開催情報を提供していただくなど幅広くお知らせしました。

灯台内部1階では、歴史的な資料のほか、経緯などを掲示し、



2022.11.3THU
MIHONOSEKI
LIGHT HOUSE

場所
美保関灯台
島根県松江市美保関町（地蔵場）

時間
11月3日(木)
10:00~16:00
※雨天等により中止とさせていただきます(都合がございませぬ)。

内容
・灯台一般公開(内部公開)
・灯台クイズ
・限定ポストカードプレゼント
・記念スタンプコーナーなど

美保関灯台
限定ポストカード
プレゼント!!!

お問い合わせ：松江市観光協会事務局 TEL 0859-42-2334
主催：一般社団法人松江市観光協会 美保関灯台支部 観光協会 観光協会 観光協会
後援：(公) 観光局

写真2 一般公開ポスター



写真3 ラジオでも紹介

写真4 限定？ポストカード

祝 灯台記念日

来訪者に対し美保関灯台の価値を知っていただく展示室とし、また、今回特別企画として交通次長が描写した当保安部所管の灯台（美保関灯台、西郷岬灯台、知夫里島灯台）を描写したポストカードを作成し、これを来訪者に配布しました。

当日はとも穏やかなお天気に恵まれ、約570



写真6 職員による説明

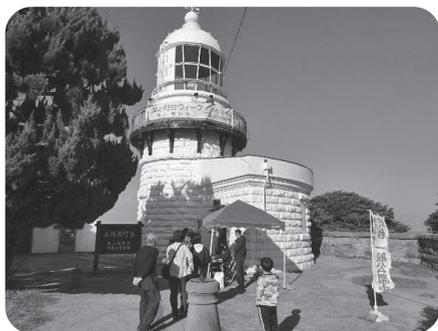


写真5 一般公開受付



写真8 職員が作った灯台クイズに挑戦！



写真7 灯台踊場からの眺望



写真10 (番外編) お疲れさまでした！



写真9 (番外編) 職員勉強会

名の来訪者があり、来訪者の方からは、

「現役で使用されているとは驚きました。」

「初めてきて灯台の中もみることができてラッキーでした。」

など感動された言葉をいただくなど、その威風堂々とした石造りの塔屋、設置当時に使用されていたフレネルレンズ（第1等）、明治時期に運用されていた「転ろく装置」と呼ばれる分銅の落下エネルギーを利用してレンズを回転する装置や分銅筒のほか、通信省（現在、総務省）の郵便マークが刻印されている状態などをみて、感激されていました。

加えて、学生募集活動のほか、美保航空基地からも固定翼やヘリ離発着に合わせた披露もあり、来場者の多くの方が感激されていました。

今回の一般公開を通じて、灯台を身近に感じてもらい、多くの方の良い思い出になっていければ嬉しい限りです。

最後になりましたが、今回の一般公開を開催するにあたり、ご協力いただいた関係機関の皆様に対し厚く御礼申し上げます。

笠利埼灯台一般公開

灯台154周年記念行事

奄美海上保安部

10月30日、10時から15時まで、奄美群島の最北端の海のみちしるべ、笠利埼灯台を公開しました。

島内外からの120名が普段は登ることの出来ない標高60メートルの灯台の上から奄美の美しい青い海と空と緑の大地の絶景を楽しみました。

台風22号の影響で、直前まで開催が危ぶまれましたが、公開開始前には天候も回復、灯台踊場では時折強



灯台内部の見学

祝 灯台記念日



制服試着



オリジナル缶バッジ
灯台ウィーク2022バッジ (右)
オリジナル缶バッジ (左)

い風も吹いたものの、涼しい快適な公開となりました。灯台への石段の登り口に受付ブースを設置、検温や手の消毒と感染発生時の対策のために代表者氏名と連絡先の記載、灯台内部では三密防止のため入場調整、万全の新型コロナ対策をとりました。

海上保安庁パンフレット、航路標識のはなしパンフレットや管内の灯台のペーパークラフトの配布、海上保安庁広報DVDの放映と管内の灯台等の写真の展示、特に個数限定の奄美海上保安部オリジナル缶バッジや海と灯台ウィーク2022のバッジのプレゼントに子供らは大喜びでした。そして、海上保安官の制服試着コーナーでは、大人から子供まで、制服や制帽で記念撮影、まだまだ暑い奄美の楽しい思い出となりました。

「のぼれる灯台」サポーター募集

全国賛助会員〔年会費 3,000円〕
全国16ヶ所の「のぼれる灯台」年間パスポート

地域賛助会員〔年会費 1,000円〕
「のぼれる灯台」1ヶ所限定年間パスポート

のぼれる灯台(野島埼灯台)



のぼれる灯台受付窓口にて
入会受付中!



「灯台のことなら」
公益社団法人 燈光会

住所：〒105-0003 東京都港区西新橋1-14-9西新橋ビル3F
電話：03-3501-1054



海上保安学校だより

海上保安学校 航行援助教官室

情報システム課程の校外実習

～百聞は一見に如かず!～

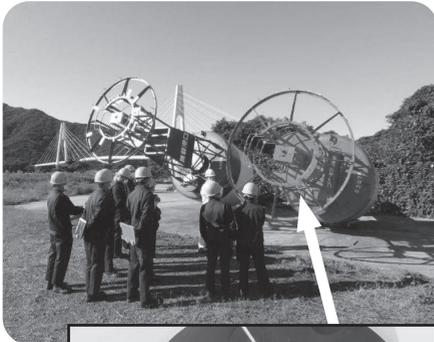


令和4年10月、海上保安学校情報システム課程第30期学生30名（うち女子9名）に対し、京都府舞鶴市所在の「空山A I S 陸上局」及び「舞鶴浮標置場」において校外実習を行いました。

実習では、第八管区海上保安本部交通部整備課及び舞鶴海上保安部交通課の協力のもと、それぞれの施設で実際に行う無線検査や整備・保



測定器の操作を体験



灯浮標の内部を見学

守業務について、目で見て、肌で感じながら説明を受けました。学生たちは授業で学んでいても、実は実物を見る機会は非常に少ないため、大変興味を持って学習しており、残り半年の学校生活を送っていくうえで非常に良い刺激となりました。

業務でお忙しいところ、本実習にご対応いただきました皆様には、この場をお借りしてお礼申し上げます。

今回は、これらの実習を通じて、学生たちが感じたこと、また半年後に現場に出るにあたっての心境など、感想の一部を紹介させていただきます。

【業務実習に参加した学生の思い】

情報システム課程第30期 小川 凜



今回の空山A I S陸上局及び舞鶴浮標置場での実習は、半年後に現場に配属される私にとって、とても良い刺激となりました。実習では、日々の授業

で習得した知識を少しづつ活かすことができた反面、その知識を応用できるようにならなければ、技術として使うことが難しいと強く感じさせられました。感じたという点で空山A I S陸上局、舞鶴浮標置場の二つの実習場において共通していたことは、両方とも私の想像と違っていたという点です。事前に配布された資料から想像した大きさよりも、一回り大きい浮標やアンテナなど、実際に見ることでしか分からないことだらけでとても驚きました。また、実際の無線検査の準備を見学したことで、授業で得た知識を定着させることができました。これらの体験は座学をしているだけでは身に付かない、自分の目で見て感じた貴重なものだと考えます。

今実習では良い刺激をもらったと同時に、海上保安官として仕事をしていくという実感も湧いてきました。

知識を技術として活かせるように、これまで学んできたことを自分のものとして消化し、今後活かしていきたいと思えます。

情報システム課程第30期 桑原 陸



今回の実習は、学校では絶対に体験できないことしかなく、座学と違いフレッシュしながら様々なことを学ぶことができました。交通部といっても

何をするのかあまり理解していなかった自分にとって、現場を見据えて時間を使うことができました。A I S陸上局の見学、無線検査の説明、無線設備のアンテナの設営及び灯浮標や各部品の説明など、学校を卒業した自分の仕事になるであろう業務に触れることができ、とても貴重な体験となりました。また、A I Sについて授業で触れることはありましたが、イメージはほんやりしていたので、この実習を通して理解を深めることができました。

灯浮標は大きさのイメージも湧かない状態で実習に臨んでいましたが、実際に標体に入って触れたり、説明を聞いて危険箇所も知ることができ、現場に出る前なのでとてもためになりました。細かい説明は時間に

限りがあり、聞くことはできませんでしたが、あと半年で現場にでる自分にとって意識向上に繋がりました。卒業まで半年を切り、不安しかないなか一日一日何かしらを学び、少しずつ成長していきたいと思います。また今回の実習で、改めて積極性の大切さも学びました。何事にも自分から行く精神を持って現場に赴任したいと思います。

情報システム課程第30期 佐々木 陵弥



今回の校外実習は、陸上で勤務することを想定し、そこに焦点を当てた実習だったと思います。空山A I S陸上局ではA I Sの無線機器の取り扱い及び無線検査の一連の流れ、舞鶴浮標置場では灯浮標を始めとした各種部品等を見せていただき、とても貴重な経験をする事ができました。

陸上局ではA I Sに関わる様々な説明を受けましたが、特に無線検査で使用するスペクトルアナライザは、実際に検査をしていたいたので、大まかな使い方や検査をする際の注意事項だけでなく、同軸ケーブルはどこに接続するのか、減衰器はいつ使用するのかなど、その場で新しく疑問に思ったことも聞くことができ

て、現場に出てどのような仕事をするのか少しイメージが掴めたと思います。

浮標置場では、説明以外にも水中接続具の分解・組み立てを行いました。交換するタイミングが減多になく、業者の方でも扱い方が分からない人がいるそうなので、絶対に覚えたいと思い、他の人よりも少しだけ多く行わせてもらいました。標体は間近で見るとかなり大きかったのですが、場所によってはもっと大きな標体もあると聞き、とても驚きました。そして、保守・点検では少ない人数で動揺しながら作業を行うと伺いました。互いにコミュニケーションを取りながら十分に注意して作業を行うことが大切だと思おうと同時に、陸上勤務とはいえ、海上で作業することもあり、危険なものも多く、決して楽なわけではないのだと改めて実感しました。

陸上勤務は外で作業することがあまりなく安全だと思っていました。十分危険な業務もあることを知りました。現場はどこに配属されても大変ではありますが、日々誰かの命がかかっていると思えばこんなにもやりがいのある仕事は他にないと改めて実感しました。卒業まで残り半年、この学校で今まで以上に多くのことを学べるよう一日一日を大切に過ごしていきたいと思えます。

東京今昔物語

個人的体験と思い出、時々哀愁

東京海上保安部交通課 坂井宣之

はじめに

本寄稿は私の記憶を元に綴っていますが、思い出の美化や勘違い、思い込みが多々あると思いますので、間違っても目くじらをたてずに、広い心でお読みくださることを願います。

令和3年4月に東京海上保安部へ勤務となり、2回目の冬を迎えました。

最初の東京勤務は平成10年4月からの4年間で、その頃はまだ東京航路標識事務所、品川区の鮫洲が勤務場所でした。

その頃は、所長、次長、業務課長、業務係長、運用係長、運用係員、無線課長、無線係長、無線係員2名、灯台見回り船きょうこう船長、機関長と、総勢12名の大所帯で、伊豆大島や三宅島などの伊豆諸島の灯台の保守管理も行っていた時代です。

業務課は灯台や灯浮標（まだ灯標はありませんでした）の保守、無線課は港内の信号所や浦安レーダ局、デイファレンシャルGPSの保守を行っており、完全に保守対象が分かれていたため、業務課運用係だった私は無線施設等の点検には行ったことがありませんでしたので、保守施設も曖昧です。

お台場には湾岸署はもとより、ゆりかもめやりんかい線もなく、船の科学館とフジテレビの社屋があるだけでしたので、信号所の点検から帰ってきた無線課の方から「お台場で戦隊もののTV撮影をしていたよ」と聞いて悔しかった記憶があります。

東海汽船のジェットホイールのジの字もなかったことから、伊豆諸島への巡回は芝浦ふ頭から出港の大型船での移動です。夏休みシーズンは人が多くて大変だった覚えがあります。シーズンオフの冬場などはがらがらでした。

その冬場に利島の灯台を点検に行った時、帰りの船が着岸できずに帰れなかったことから民宿に泊まったのですが、民宿のお母さんに「ヘリコプター予約しなかったの？ダメだよ、冬は欠航が多いんだから」と注意され、時間があつたことから、勤労福祉会館でボウリングをやったのはいい思い出です。利島にボウリングのレーンあるの知ってました？

平成12年の三宅島噴火の際には、停電したサタドー岬灯台に可搬型発電機を持ち込み、夕方に燃料を満タンにして給電したりもしましたが、平成14年に異動となるわけで、その後火山性ガスの危険もあつたことから巡視船も動員して全島避難が行われ、その後に入島制限や火山性ガスと戦いながら残られた職員が島の灯台の保守で大変な苦勞をなされたと聞き及んでいます。

平成14年に異動してから15年を経て、再び東京の航路標識保守をする機会を頂き、平成29年に東京海上保安部勤務となりました。

その間、デファレンシャルGPSセンター、千葉口ランセンター、東京湾海上交通センターと、灯台等の保守から離れた職務に就いていたところ、航路標識事

務所は航行援助センターとなり、さらには海上保安部へ編入され交通課になっていました。

勤務地も旧東海道沿いの鮫洲から、おしゃれスポットのお台場です。

2度目の東京勤務の際には、奇しくも航路標識事務所勤務時代に指導して頂いた当時の運用係長が交通課長として着任されたことから楽しく勤務させて頂きました。

東京に配属されていた灯台見回り船はすでになく、伊豆諸島の航路標識は下田海上保安部所管となり、東京港内に5基あつた灯台も2基を残すばかりで、そのうちの東京西防波堤灯台は廃止が決定していたことから、平成29年末には東京木材投下泊地防波堤西灯台1基となってしまいました。

そんな東京海上保安部交通課は、交通課長、主任航行援助管理官、航行援助管理官2名（2名とも再任用職員）の4名体制で、航路標識事務所である品川分庁舎の建物は倉庫兼作業場となり、灯器やマーキング装置の整備で使用しています。50を過ぎて一番の若手ってどうでしょう。

時を同じくして管制一元化が進められていたことも

あり、船の科学館内にあった東京港内交通管制室（十三号地信号所）を含む港内の信号所7施設が東京湾海上交通センター所管となりました。

管制一元化とは、東京、千葉、横浜の各港内交通管制業務を東京湾海上交通センターで行い、手狭になる観音崎から横浜の合同庁舎内に集約するというものです。それに伴い、各保安部で管理していた信号所も海上交通センター所管となりました。

翌年の平成30年には東京から千葉に転勤となり、平成元年に関東を直撃した台風で苦労したことは、また別の話。そんな中、10月に4名体制だった東京交通課が3名体制になったとのこと。信号所等の保守管理が海上交通センターに移管されたことによる減員のことでした。

「東京も大変だなあ」と思っていた令和3年4月に3回目の東京勤務となり、着任したところ、課員である航行援助官付は小さいお子さんがいることから、勤務時間の短縮制度を活用しており、その補助的な戦力として再任用職員（短時間勤務）が1名配属されていたので、交通課長、主任航行援助管理官、航行援助管

理官（再任用）、航行援助管理官付の4名体制での勤務となりました。

それから1年、今年の春の人事異動で、再任用者が勤務終了、航行援助管理官付が移動、その後には御前崎の巡視船勤務の若手が着任、結果3名体制での勤務が始まります。

3名体制で思い出したのが平成6年に勤務した釜石航路標識事務所です。

定年前の所長、10歳ほど年上の上席係員、そして海上保安学校卒業して5年目の私の3名勤務でした。

10メートル型の船員がいない灯台見回り船があり、船舶操縦免許の有資格者が私だけでしたので、所長の指導の下おっかなびっくり操船した記憶があります。

見回り船で巡回の帰りに霧の中に入ってしまった時のこと、リーダーが搭載されていなかったのコンパス頼りに帰港しようとして霧から出たら、釜石大観音の足下だったというのは忘れられません。熊が出る陸中尾崎の山道を熊よけの鈴を鳴らしながら灯台を目指して歩いたり、杉花粉で前が黄色のもやがかかっている林道を官用車で移動したりといい思い出ばかりです。

平成8年頃に少人数事務所だった釜石(3名)大船渡(3名)を宮古航路標識事務所と集約し岩手航路標識事務所(13名)になりましたが、そのタイミングで私は塩釜航路標識事務所(4名)へ異動したので、岩手航路標識事務所の勤務状況はわかりません。

その後、一県一事務所構想(二つの都道府県に対し、航路標識事務所を一つに集約し保守業務にあたる)があったり、航行援助センターへの改変、保安部編入を経て今に至ります。

航路標識事務所があった頃は、第二管区の太平洋側の一部でしか勤務していませんので、二管区の青森、八戸などや日本海側、また全国的にはどうだったのかはわかりませんが、当時の所長に伺ったのは、年休処理もままならない少人数事務所を解消するための組織編成、だったと記憶しています。

釜石勤務の際には、釜石海上保安部及び巡視船乗りも(当時)との付き合いもあり、歓送迎会、旅行会などを合同で行っていました。

保安部と航路標識事務所は離れていましたが、徒歩

で15分程度の場所だったこと、航路標識事務所の敷地内にあった船艇倉庫(余剰スペースを貸していたのかもしれない)があったことから、良く声を掛け合ったものです。

ふと思ったのですが、東京海上保安部で管理課、警備救難課、航行安全課の職員同士同じフロア内にいるものの、その中で「航路標識保守業務」を行う交通課3名は、歓送迎会を保安部と一緒にやっていた釜石航路標識事務所勤務の頃と同じような感じではないかと。

少人数勤務を解消するために行っていた航路標識事務所の組織改編ですが、気がつくくと少人数に戻っていました。
なんだかできの悪いコメディを見ているような気がするのは私だけでしょうか。

おわりに

作業の際に赴く品川分庁舎、旧東京航路標識事務所。行く度に懐かしくて色々と思い出します。

冷房がない倉庫で汗をかきながらマーキング装置を

整備したり（今もですが）、無線係長が新島巡回でお土産にもらったクサヤを焼いて廻りに強烈な香りを漂わせてしまったり（美味しかったです）、休日に風鈴を作ろうと鑄造に挑戦して失敗したり、翼が折れたカラスに餌をあげたり・・・。

古き良き時代といいますが、たかだか25年ほど前のこと。

ん？25年って四半世紀。

おぎゃーと生まれた子供が成人を迎え、さらに子を育てることができるほどの時間か。

昭和6年、当時31歳の俳人・中村草田男が母校の小学校を20年ぶりに訪れた際に下校する子供たちが洋装であったことに大きく衝撃を受け、自分が小学生だった明治末期と大きく違うことを感じて「降る雪や明治は遠くなりけり」と残しましたが、25年ぶりに東京勤務となつて感じた心境はまさに「冬の海平成遠くなりけり」といったところでしょうかねえ。

平成が終わったのは数年前ですが・・・。



船橋散歩

普通会员 山越國利



私の住む千葉県船橋市は、東京湾の一番奥まったところに位置し、江戸時代以前から漁業が盛んな街で、漁船のための灯明台が船橋大神宮の境内に設置されており、これについては以前本誌で紹介しました。

船橋に引越して来て20年、私の80年近い人生で最も長く住み続けている町です。

コロナ禍以前から住まいの付近を散歩するのを日課としていますが、散歩でよく行く公園や有名な施設などについて、綴ってみました。

海軍船橋無線電信所

船橋市付近の地図を広げると、市の北西部に円形の土地が見られます(写真1加筆部分)。こんな真ん丸の土地は何なのだろうと不思議ですが、そうです、無線局のアン



写真1 船橋市北西部地図

テナ敷地なのです。ここに、旧海軍の船橋無線電信所が設置されていました。例の「ニイタカヤマノボレ二〇八」の暗号電報がここから発射されました。この電文は、船橋のほか、佐世保など何か所かで発射されたようです。

このアンテナ敷地の直径は、約800メートル、敷地を囲むように歩道の付いた6メートル道路があり、その外周は約2500メートル、私の足だと30分で一周できます。公園の一角に写真のようなモノユメントが設置されています。



写真2 モニュメント

古い資料によると大正4年に設置された初代のアンテナは、主塔の高さ200メートル、36条の素子を持つ傘型アンテナだったようです、その後、昭和14年から始まった大改造工事によりアンテナ形状が東京タワー

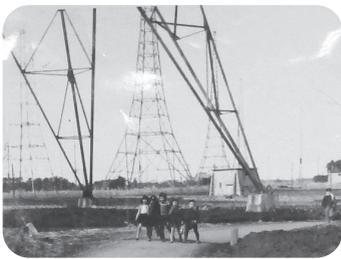


写真3 大改修後の鉄塔群

型の自立式鉄塔に変更され、高さ182メートル余の大鉄塔が南北に3基ずつ並び、敷基の中・小鉄塔が群立し、鉄塔の頂部同士にアンテナ素子が張り巡らされる偉観で、昭和46年に解体されるまで、船橋の名物となっていました。この付近に生まれ育った70代の方は、鉄塔群をよく覚えており、その威容さの話を書くことができませんでした。

敷地は、ほぼ円形ですが、2か所ほど歪な部分があります。その一つが、私の住む近くにある諏訪神社の境内の庚申塚がある部分です。天明、天保、安政の年号が刻まれた庚申塚が立ち並んでおり、いくら海軍の施設だからと言って、庚申塚を壊してまでアンテナ敷地とすることができなかったのでしょうか。いや、むしろ神を敬う軍であるからこそあえて手を付けなかったかと思いたい。

そしてもう一つの歪なところは、武蔵野線の高架線路が走っている部分です。昭和53年に武蔵野線の新松戸、西船橋間の営業が開始されましたが、それに伴う



写真4 諏訪神社庚申塚

高架線路の建設のためアンテナ敷地の一部が削られました。その時点では、無線局として機能していませんでした。それ以外は、本当に真ん丸のままです。

県立行田公園

アンテナ鉄塔の解体後、敷地内にいろいろの公共施設が建設され現在に至っています。

現在、小学校、中学校、税務大学校研修所、国家公務員宿舎、消防署、公団団地などがあり、それらの中で一番大きな面積を占めているのが千葉県立行田公園です。

旧アンテナ敷地のほぼ中央、南北方向に、片側二車線の大きな道路が走っています。行田公園は、この道路を跨いで東公園、西公園に分かれており、道路横断部分には大きな陸橋が設置されていて、東西の公園を交通に妨げられることなく往き来出来ます。

東公園には、一周940メートルの歩行用道路があり、ここを大勢の人が健康維持のためせっせと歩いたり、ジョギングしたりしています。私も歩行組のうちの一人です。少し速足で歩いて一周約10分、これを九分代にしようとするとうるさく相違きついです。

西公園に小さな池があって、初夏になるとここにカルガモが子育てをしているのが見られます。一昨年の

6月は、2組の親子が泳いでいました。はじめ1組9羽のひなを連れていましたが、育つ間に1羽減り、2羽減り、成鳥になるころには、それぞれ5羽にまで減っていました。カラスや猫の餌食になったのでしょうか。昨年も雛が生まれたようですが、たちまち鷹の一種の「つみ」に襲われたらしく、全滅したようです。

国家公務員行田住宅

行田住宅は、行田公園の北側にあり、9棟の宿舍が設置されています。しかし現在、9棟とも建物はありますが、全て空き家になっています。全国的に公務員宿舍の閉鎖が進められているのでしょうか。現役の方や、OBの方で、行田住宅に入居しておられた方は、写真を見て懐かしく思われるのではないでしょう。



写真5 行田住宅

島津が開いた松が根部屋、後に二所ノ関部屋となった相撲部屋があります。二所ノ関部屋の時には、二所ノ関一門（佐渡が嶽、芝田山、尾車、田子の浦、鳴門など）の場所前合同稽古が行われ、当時まだ大関だった稀勢の里の姿もありました。散歩途中に偶然合同稽古に遭遇し、稀勢の里が、すぐ前の公園で、すり足稽古をしていました。携帯で写真を撮ることもできたのですが、あまりにも真剣に稽古しているので、つい見とれてしまいました。

毎年正月には、部屋の玄関先に立派な門松が飾られます。

平成29年10月、二所ノ関親方（若島津）は、自転車で走行中に行田公園の近くで転倒し、頭を強く打って、一時は歩行困難な状態でしたが、その後、懸命にリハビリをされ、現在は、一人で歩行できるまでに回復したとのこと。

なお、二所ノ関部屋は、元横綱稀勢の里が若島津からその名跡を引き継いで、先だって、茨城県で二所ノ



写真6 二所ノ関部屋の門松

相撲部屋

アンテナ敷地の外側、武蔵野線の近くに、元大関若

関部屋を開設したとのニュースをテレビで見ました。

中山競馬場

私の住まいから行田公園を超えて西に進むと、約30分で中山競馬場に至ります。中山競馬場と言えば、中央競馬を施行する競馬場で、競馬好きの方はよくご存じの桜花賞（毎年春）と有馬記念（毎年暮）が行なわれる所です。私は、競馬にはあまり詳しくありませんが、一度だけ、友達に誘われて入場し、元手の3000円があつたという間になくなつた記憶があります。

行田公園の横を通つて少し行くと、競馬場に至る道路があつて、その両側に桜の木が植えられており、数年前まで毎年春には道路を覆いかぶさるように桜の花が咲き、道路は桜のトンネルと化していました。近年老木が増えそれらが若木に植え替えられたので、往年の美しさは見られなくなりました。

それと、船橋に越してきたころは、付近住民へのサービスとして、毎年夏には



写真7 競馬場沿道の桜

競馬場が花火を打ち上げていました。我がマンションからでもすぐ近くに見えていましたが、ここ数年、そのサービスがなくなりました。

船橋の歴史

徳川家康が関東に転封されて、この地方の多くは徳川家の領地となり、船橋あたりは、天領と、旗本領とされました。市内には、天領の名残の船橋御殿の跡地があります。

船橋は、江戸から成田山へ詣でる街道の通り道で、成田詣でが終わって、いよいよ明日は江戸に帰るというその前夜、最後の夜を船橋で過ごす人が多かつたらしく、江戸時代の後期には旅館数が30軒以上あり、酔客を楽しませる店も多く繁盛していたようです。

しかし、船橋は、戊辰戦争の戦場となり、町のほとんどが焼けつくされて、古い建物は残っていません。昭和になって、太宰治、川端康成、永井荷風などの文人が船橋に住み、執筆活動をしていました。太宰治が使用した部屋を残していた老舗旅館が、このコロナ騒ぎの影響で廃業したのは誠に残念なことです。

— 明治の灯台の話 (72) —

御前埼灯台（前編）

灯台 研究生

灯台が出来るまで

静岡県の御前埼沖は、御前岩ごぜんいわのほか多くの暗礁が散在し、古くから船の座礁事故が絶えませんでした。寛永12（1635）年、航路の安全を図るため、江戸幕府の指示により、御前埼に見尾火燈明堂と称する二間（約3・6m）四方の燈明堂（写真1）が建てられたことが、

御前埼町史に掲載の元禄元（1688）年7月付「見尾火燈明堂老軒」（同史資料編近世（一）下村茂所蔵。以下、下村文書）に記されています。



写真—1 復元された見尾火燈明堂
（令和4年4月撮影）

す。灯火は燈明堂内に安置された障子紙で囲った行燈の火で、村民2名が交代で輪番していたことも同文書に見られます。

240年近く続いたこの燈明堂は、明治4（1871）年4月に、カンテラ（燭台）を置いたガラス張りの燈明台（資料1）へと更新されました。また、専属の燈明番1名が配置された事実も、同年2月付の下村文書もんじに記されています。この更新は、東京に召集された御親兵を乗せた鳥取藩の軍艦が、御前埼沖で座礁沈没した事故がきっかけであったと、燈光大正14年9月号に掲載の「御前埼燈臺沿革」とうたいほか、後年の燈明台関係資料に見られます。燈光昭和12年5月号の下村徳市氏「御前埼燈臺沿革」には、この灯火にまつわる逸話えいごが、次のとおり見られます。

どんなに厳しく見張りをしても、油障子に行燈の燈明では、所詮非常の場合に役立たぬといふので、原文のまま明治四年四月に硝子張りのカンテラ使用のものに改良した。古老の記憶図によれば、外形は大体現今の洋式燈臺に近似したもので、高さ二間四尺に横幅が一間二尺の板製、特色としては硝子を嵌めた燈臺が八角になってゐる点である。



ガラス張り燈明台（高藤 力画）

資料-1 御前埼燈明台
 (御前埼灯台史料集
 「みおつくし御前埼燈臺」挿絵)

矢張り燈芯使用で、上部に大皿があり一晚に約二尺の油を要した。このカンテラが完成すると今までの村民の賦役は解除され、新たに燈臺役人が配置される事になった。

すなはち燈明番上役に旧旗本井戸弘、下役には前島元三郎を筆頭に五名、井戸様は相当立派な人物で格式ばった昔ながらの生活をしてゐたが、下役は二十代の若者ばかりで、燈明附近の五軒長屋に住んでゐた。しかし五軒長屋は若い者同志とて何日も朗らかな雰圍氣が渦巻き、退屈になると畑へ行って小刀を用ひ、他處の南瓜や茄子をちやん切つて来て、品評會を開催するといふやうな茶目をししば演じた。

下役の一人前島猿造は東京の生れだが生来、木登りが上手で「恰も猿の如し」といふので、山岡鉄舟先生に猿の字の名前を貰つたほどで、後に洋式燈臺が建設されてからも高所のペンキ塗りに大いに重宝がられ、本人もモツコなどで頂上あたりまで登り得意で作業をしたそうである。彼は長屋に住むうち村娘の某と懇ろになり子供まで出来、目出度く結婚式を挙げて夫婦になった。当時この微笑ましいローマンスが村中の評判となり、岡^{おかやき}焼^{あかやき}半分の女達がこんな唄を当村に流らした。

早くなりたや燈明番の

五軒長屋の奥さまに

清水海上保安部に保管の御前埼灯台経歴簿の小使・水汲等の記録には、最初の行に、雇入不詳、解雇明治13年3月の「小使 前島猿藏」の名が記されています。燈明番「前島猿造」は、後年に灯台の小使いとなり、御前埼の灯火を陰ながら確かに見守っていたようです。御前埼に燈明台が出来て間もない明治4年8月、対岸の伊豆半島の南端に、同じ八角形の木造の石廊埼灯台（写真2）が誕生します。神子元島灯台の設置により一旦廃止された石廊埼燈明堂が、和船からの強い要



写真-2 初代石廊埼灯台
(国立博物館保管写真)

望により、当時日本一小さい灯台として復活したものでした。

そして石廊埼灯台が出来た翌年、御前埼でも燈明台から灯台への更新が図られます。

灯台の建設

御前埼灯台の設置要望は、工部少輔山尾庸三から明治政府（正院）へ、明治5年1月9日付の「陸奥國牡鹿郡其外へ燈明臺建築ノ儀ニ付伺書」にて申請され、1月12日付で承認されています。同公文録には、御前埼灯台の設置理由が次のとおり記されています。

一 御前崎

右 南方或ハ西洋各國ヨリ横濱方へ航海スル諸船ノ為ニ 標的ナカル可カラザル喫緊ノ場所ニテ 其地形ハ低フシテ砂石也 且此沖ニ海礁アリ 航海者常ニ此礁ト低地ノ中間ヲ通行ス 暗夜ノ如キハ之ヲ分知ス可カラザルヲ以テ 或ハ鍼路ヲ過リテ困難セル憂アリ 又和船等ハ天氣模様ニヨリ多ク此両側ニ碇泊スルニ就是亦今般適宜ノ燈臺御建築相成 候様仕度 候

同伺書には、御前埼のほか犬吠埼、金華山、襟裳岬、厚岸、納沙布岬、根室港への灯台設置も要望されています。それまで日本の灯台は、改税約書で取り決められた外国船に有益な灯台がほとんどで、東京・横浜と大陸を結ぶ航路上の灯台でしたが、伺書の灯台は北へ向かうための灯台で占められています。その中で御前埼灯台だけが、従来の外国船の航路上に位置した灯台でした。ただし、設置理由には、日本船が御前埼の両側に荒天避泊するため、喫緊に必要であるとも見られます。

御前崎町史の記録文書には、明治3年8月付「廻船問屋にて御普請願」の中に、御前埼灯台の設置要望に関する次の一文が見られます。

此節 燈明台 諸國浦々江 新規取建 有之趣を以、右問屋方ヨリ申越 候義も有之、況静岡倍々御繁栄二付、清水湊其外江運送出入船繁多二付、乍恐当村燈明台御普請 其外油増等 奉願上 候義者奉 恐入 候間、此節 諸國燈明台御掛神奈川県二而新規製造有之趣 其筋々江申出、先般申談事置候東京廻船問屋並荷問屋共合、実定之上 遠江灘 通船石積を以 船手者相州浦賀荷受 問屋者東京二而積高何程 國も同断、右問屋共ヨリ御冥加税上納為致、右を以御入用御取賄相成 候様仕度、左候へ者御国益二も可相成哉 奉 存 候

この文書は、御前崎の名主・組頭から地方の役所に宛てた請願書です。文書に記された燈明台とは、灯台を指します。書かれた当時、観音埼、野島埼、城ヶ島灯台は既に設置され、神子元島灯台が間もなく完成の頃で、御前崎はまだ燈明堂でした。静岡は益々繁栄し、清水港への出入船も多い現状から、灯台の建設工事で燃料油の増量の要求を地方役所へ行いたいのが恐れ多く、神奈川県にて各地の灯台を新規に造っている係へ申請し、廻船問屋や荷問屋の海運業者から運上冥加税を上納させ灯台の運営費用とすれば、国益にもなるで

あるうと申し出ています。御前埼灯台の設置は、国の灯台担当者のみならず、御前埼の地域住民からも要求されていたのです。

そして前記の工部省の伺書が出された2ヶ月後、見尾火燈明台の燈明番一同は解職され、燈明台も廃止される記録が、同5年3月19日付の下村文書に見られます。

五軒長屋の楽しい生活は、一年余りで終わっていました。この2ヶ月後の同5年5月26日に御前埼灯台の工事を開始しましたが、御前埼灯台経歴簿に記されています。また、燈光大正14年9月号に掲載の下村文書には、次のとおり見られます。

燈明臺西洋普請相成候は 明治五年四月より取掛り同七戌五月皆出 来相成候

伊豆石、相良、川崎船、御前埼押送りにて積み来り下御崎濱付、陸上、五ヶ所人足にて燈臺迄持行、尤も大



資料-2 御前埼灯台位置図

石付海岸持廻り上 御崎砂地を「ロクロ」にて巻き上ぐ
燈臺掛（東京）今武中属 大工棟梁 村山清弘

石屋 伊豆より来
右の外所大工相良迄、石屋、左官其外来る

この記録に関して、前記の下村徳市氏「御前埼燈臺沿革」には、次の逸話が見られます。

いよいよ御前埼に一等燈臺が設置されることになる
と、横濱の燈台寮に属してゐた築造方首員のリチャル
ド・ヘンリー・ブラントンなるものが、佐多岬伊王嶋
島等の建築をしまひ、次いで御前埼の設計書を握つて
颯爽とやつて来た。

政府はブラントン技師の外に、燈臺小属の今武高光、
技手一等見習心得の村山清弘を出張させた。そこで近
郷近在からは石屋、大工、左官等が御用仕事にどしど
し駆り集められ続々入り込んで家を建て、俄に居酒屋
まで出現する始末。先ず燈臺に使用する石は、対岸の
伊豆から数十艘の船で運んだが、非常に大きな石を海
岸の砂地から高台の用地まで引き上げるのは頗る難作
業で、ロクロを使用し巻き上げたが、一つの石に百人
もの人足がかかった。次に外壁に要する煉瓦は土質の

都合で、二里近くも離れた地頭方村で焼き、これまた
舟や人でボツボツ運搬せねばならなかつたから随分手
数のかかるものだった。

工事は一切ブラントンの命令で村山清弘が多くの職
人を指揮し進行して行つた。村山が棟梁の身であるが、
ブラントンの英語をよく理解し、且つ温厚な人格者で
あつたから職人達から敬慕されてゐた。今武高光は、
いはば普請奉行で、監督、人事、會計等の事務を司つ
てゐた。彼は自ら朝臣、源高光と称し剛毅な性質でぶ
つきき羽織を着、役人宅から出勤してゐた。

明治7年の官員録を見ると、確かに燈台寮に当時は
少属であつた今武高光と技術見習心得の村山清弘の名
が確認できます。今武高光は、御前埼の他、佐多岬、
友ヶ島、立石岬、宗谷岬、神威岬など各地の灯台建設
工事の記録にその名が残されています。村山清弘は、
この灯台の工事記録にしか名前がなく、官員録にも明
治9年までとなくなっています。

近年の調査では、御前埼灯台の石材は伊豆石である
ことが判明しており、また他のブラントンの灯台同様、
石材はロクロで灯台まで引き上げた事実が記されてお
り、逸話は一定の信頼性があるものの、ブラントンに

ついでには実録と矛盾します。ブラントンは、御前埼灯台の工事開始2ヶ月前の明治5年3月17日（1872年4月24日）から明治6（1873）年4月5日まで約1年間、日本での任期を終え英国に一時帰国しています。また、日本へ戻った後、横浜港の築港計画に忙殺されたと自ら回顧録に記しています。御前埼に今武高光らと出張し、工事の一切を指揮していたのはブラントンとは異なる人物が考えられます。

同沿革には、続いて工事の詳細や古老が語るエピソードが次のとおり記されています。

最初の基礎工事はまた大変で、高台の突端に位置を定めると、二丈（約6m）も深く地下を掘り漸く岩盤に達すると、今度は砂利や石片を投げ入れセメントで次第に固めた。燈臺の周囲すなはち築造壁はいはゆる、積石積で伊豆石や煉瓦を適宜使用した。かくして漸次圓筒を形成して行くのだが、潮風に混じって鼻嵬も聞こえ賑やかに和やかな作業風景であった。

ブラントンは燈臺官舎が完備するまで、村役人松林久左衛門の宅にゐた。食事は無論洋食で、政府との約定によって、コックを一人おいて賄をさせた。食用に供する豚とかパンの原料、その他生活必需品はすべて

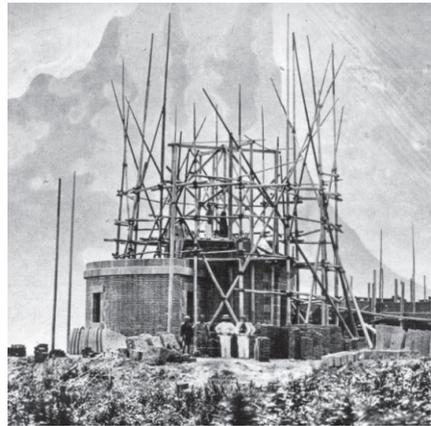


写真-3 建設中の御前埼灯台
(燈光会保管ガラス乾板写真)

横濱から燈台寮の視察船テーパー号（八百噸）が配給した。政府は英国一流のエンジニアたる彼を重んじて敬意を拂ひ、給料も一月洋銀四百五十枚といふ豪勢さであった。

古老の話によると、彼は奥さんを同伴して来たので、散歩にはあちらの習慣でよく二人で腕を組んで歩いたが、村民は可笑しくつてしやうのなかつた由。狩猟が好きだったらしく、犬も二匹飼っており、シムといふ十二三の息子を連れて、仕事の暇には附近の森に行き、度々鳴などを打ちとめて来た。村の者は初め異人さんを怖がったが次第に親しみがでるし、ブ氏もすっかり

馴染になると娘さんをつかまへては、「おかみさん今日」など日本語で御愛嬌をいふやうになった。一體、彼等の生活は村民の怪異の的であったが、或る日一人の勇士が、ブラントンの入浴中石鹸を使用しているのを垣間見て大に驚き「西洋人は身体を砥石で磨いてゐるぞ、色の白い筈だ」と村中に触れ廻ったといふ。

ブラントンの記述が続きますが、ブラントンには娘が二人だけで、男の子がいた記録はありません。月給は600円で、450円は築造方補員のジェームズ・マクリッチ（写真4）であった事実が、明治17年刊行の工部統計志の燈台局付属雇外国人の一覧に見られます。マクリッチは、明治5年3月、御前埼の工事開始前に燈台寮に正式に採用され、ブラントンが英国に帰国後、彼の後任として各地の灯台建設や灯台視察に細かな指導を行っていた記録が残されています。

下村氏のこの「御前埼燈臺沿革」の8年前の燈光昭和4年7月号に掲載されていた「御前埼燈臺の今昔」には、ブラントンの記述は一切なく、「御前埼の老人の間では英国技師ジェムス・マグリッチという名が記憶に残されている」と記されています。また、同4年3月に発行の「我等の燈臺守」の御前埼灯台の記事に

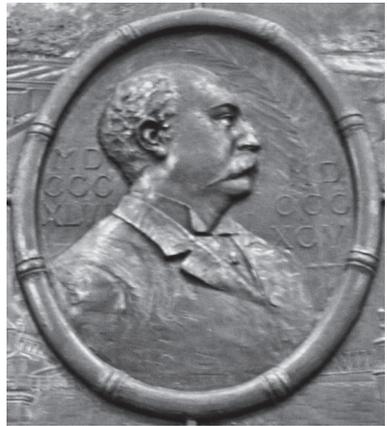


写真-4 ジェームズ・マクリッチ
(シンガポール、ブロンズ記念パネル)

も、ブラントンの記述はなく、マクリッチ技師が建てた灯台とされています。

昭和9年6月17日、御前埼灯台にて灯台60周年記念祭が盛大に行われています。この記念祭を境に、回顧録の灯台監督者が、マクリッチからブラントンに交代しているようです。

お雇い外国人のレンガ灯台

約2年の工事期間を経て明治7（1874）年5月、御前埼灯台は完成します。点灯開始の告示は次のとおりです。

御前崎燈臺

- 一 遠江國御前崎燈臺ニ於テ 第一等旋転燈明ヲ設ケ
明治七年五月一日 即 西曆一千八百七十四年第五月
一日ノ夜ヲ始トシ 爾後毎夜日没ヨリ日出マデ點燈
ス

- 一 燈臺ノ位置並ニ燈明ノ光景ハ 左ニ詳記スル者ナ
リ

明治七年四月一日

西曆一千八百七十四年第四月一日

工部省分局横濱辨天燈臺寮 燈臺頭 佐藤與三

- 一 御前崎燈臺ハ 駿河湾ノ西 遠江國ノ極南ノ地ニ
位置ス 此地ハ北緯三十四度四十分ニシテ 英國
「グリーンニッチ」ヨリ東經百三十八度十二分ニ當ル
一 燈臺ハ白色圓形煉化石造ニシテ 燈籠ノ中央迄高
サ五丈七尺(約17・3m)ナリ
- 一 燈明ハ第一等旋転白色ニシテ 半分時毎ニ一度閃
光ヲ發シ 海面二百四十二度十九分ヲ照輝シ 一方
ハ燈臺ヨリ北四十一度三十分東 又一方ハ北七十六
度十一分西ノ方位ヲ蔽陰ス
- 一 「レデー、イングリシ、ロック」ト唱ヘル岩ハ 燈

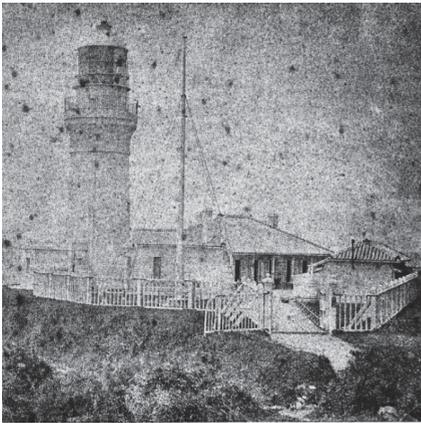
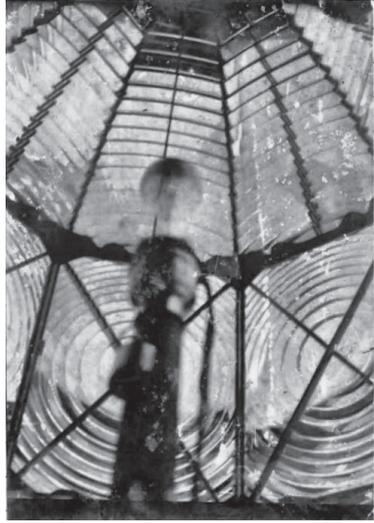


写真-5 最初期の御前崎灯台
(宮内庁書陵部所蔵)

- 臺ヨリ南八十六度三十分ニ當ル 其距離凡四海里
- 一 右ニ記載スル方位ハ 真方位ナリ
- 一 燈火ハ高サ海面ヨリ十七丈三尺(約52・4m)ニ
シテ其光線十九海里半ニ達ス
- 築造方 アール、ヘンリー、ブラントン

御前崎灯台は、日本最初の一等レンズを回転させる灯台でした。それまでの一等レンズの灯台は、最初の野島埼灯台から潮岬灯台まで6基とも、レンズが回転しない不動灯の灯台でした。

御前崎灯台を回転灯台とした理由は、同じ一等レン



写真—6 御前埼灯台の一等レンズ
(御前埼灯台経歴簿貼付写真)

ズの神子元島灯台と誤認しないようにする措置（資料1参照）であったことが、明治17年刊行の工部統計志の燈台配置の中で明記されています。

また、告示にあるとおり御前埼灯台はレンガ造の灯台です。ブランドンは、御前埼灯台を含め4基のレンガ造灯台の建設に携わっています。ブランドンはイギリスに帰国後、日本の灯台についてまとめた「J A P A N L I G H T S」の中で、レンガ灯台について次のとおり記しています。

煉瓦で灯塔を建てるのは最近のことである。日本においては、煉瓦の製造方法は移入されたばかりで、完

全なものが出来ないので、建築材料に煉瓦を使用したのは、他の材料が得られなかったからである。

すべての煉瓦は、工部省の雇いの外国人の指導で造られている。日本には、良質の粘土があるから、おおよそは良い煉瓦が製造された。

しかし、日本の職人は煉瓦を焼く工程で十分に注意深くないので、よい製品が得られないことがあり、不良品を除くため子細に点検しなければならなかった。使用に耐える煉瓦は、一インチ（約二・五四センチ）平方につき七〇〇ポンド（約三一七・五キログラム）の圧力に耐えられるものである。日本で造った煉瓦は、期待以上に多孔性のもので、重さの十ないし十二パーセントもの水を吸収した。

煉瓦の劣化をできるだけ防ぎ、頑丈なものにするため、灯台の塔の外壁全部にポートルランド・セメントを練って塗った。煉瓦の積み方は、フランス積（Flemish bond）とした。

煉瓦積み目の五層目毎に、間に帯鋼を挿入（hoop-iron-bond）した。入口や窓の上部と底部はすべて石造にした。

塔の外壁から十三インチ（約三十三センチメートル）までの各層の煉瓦積みは、すべてポートルランド・セメントで接着し、それ以外には石灰モルタルを使った。

この作業に使う生石灰には、特別の注意を払った。

この「JAPAN LIGHTS」のレンガ灯台の記述と、現存するブラントンのレンガ灯台が矛盾することを、拙稿で何度か取り上げてきました。御前埼灯台も例外ではありません。

レンガ灯台は、同じお雇い外国人のフランス人灯台技師フロランも、観音埼灯台を始めとする4基の灯台すべてを手掛けています。英仏お雇い外国人が建てたレンガ灯台は、灯塔の形状やレンガの積み方などが様々です。資料3のとおり、両者のレンガ灯台を点灯開始順に整理してみました。

フロランは、観音埼と野島埼をPhare（灯台）、品川と城ヶ島をEhanel（標識灯）と区別しており、その違いは、灯台の高さや形状、レンガ積みからも明らかです。灯塔の形状は、ブラントンの画一的な円形とは対照的に、それぞれに特徴的な形状が見られます。フロランが在籍した横須賀製鉄所製のレンガが、すべてに使用されているのは、灯台4基とも輸送費用が安価で済む横須賀から近距離だったためです。

ブラントンは、「JAPAN LIGHTS」の中で、灯塔の外壁全部にポートルランドセメントを塗ったと記

No.	名称	監督者	点灯開始	灯高	灯塔形状	外壁塗装	レンガ積み	二重壁	レンガ製作地
1	観音埼	フロラン	明治 2. 1. 1	12.1m	四角形	なし	フランス積み	無	横須賀製鉄所
2	野島埼	フロラン	明治 2.12.21	30.0m	八角形	生石灰	フランス積み	無	野島崎、横須賀製鉄所
3	品川	フロラン	明治 3. 3. 5	5.8m	円形	なし	平積み	無	横須賀製鉄所
4	城ヶ島	フロラン	明治 3. 8.13	5.9m	円形	なし	平積み	無	横須賀製鉄所
5	菅島	ブラントン	明治 6. 7. 1	8.6m	円形	ペイント	イギリス積み	無	濃鹿野島 竹内仙太郎
6	御前埼	ブラントン	明治 7. 5. 1	17.3m	円形	セメント	イギリス積み	有	静岡県榛原郡地頭方村
7	犬吠埼	ブラントン	明治 7.11.15	27.3m	円形	セメント	イギリス積み	有	千葉県香取郡高岡村
8	尻屋埼	ブラントン	明治 9.10.20	28.3m	円形	セメント	イギリス積み	有	北海道 茂辺地煉化製造所

資料3 お雇い外国人のレンガ灯台一覧

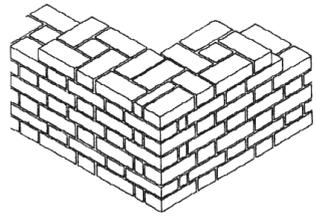


図-1 フランス積

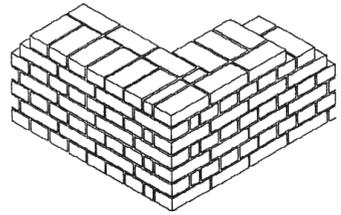


図-2 イギリス積

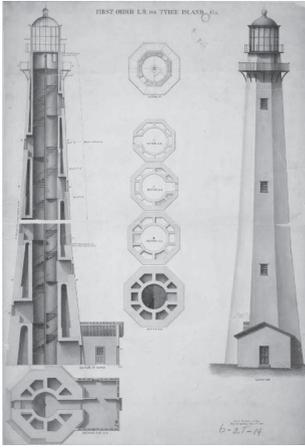
資料4 フランス積みとイギリス積み

していますが、現存する菅島灯台は白く塗られていますが、レンガはむき出しで、セメントが塗られた痕跡は見られません。レンガ積みに至っては、フランス積みではなく、御前埼灯台も含め4基すべてイギリス積と野島埼の2基の灯台にしか見られません。

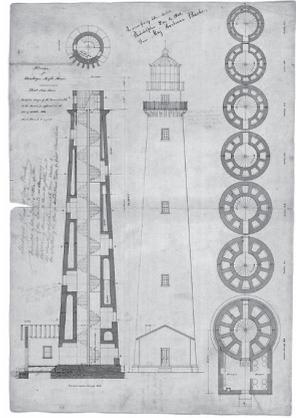
フロランのレンガ灯台に対して、ブランドンのレンガ灯台の大きな違いのひとつに、灯塔の二重壁構造があります。菅島灯台を除き、御前埼、犬吠埼、尻屋埼に共通して見られます。この構造は、お雇い外国人が去った後、日本人技術者が手掛けたレンガ灯台の屋久島、初代釣掛埼、初代塩屋埼そして出雲日御碕、水ノ子島灯台など石造の大型灯台にも採用された明治期灯

台にのみ見られる特筆される構造です。ブランドンのレンガ灯台の大きな特徴ともいえる二重壁構造が「JAPAN LIGHTS」には全く記されていません。灯台の二重壁構造について書かれた明治期の記録資料はなく、近年の報告書では耐震のための措置とされていますが、異なる見解があります。多くの二重壁構造の灯台（資料5）があるアメリカでは、防湿が目的であったとされています。この灯台の二重壁構造の質間に対し、アメリカライトハウス協会技術顧問のトーマス・タグ氏は、東京工業大学藤岡洋保名誉教授と懇生へ次のように回答しています。

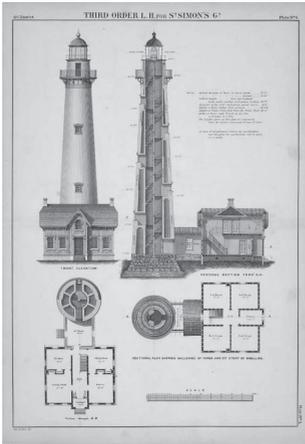
Before 1852 all of the American lighthouses were made of wood, rubble stone, or brick with solid walls. Our Lighthouse Board was created in 1852 and Professor Joseph Henry was its Scientific Advisor. There was a great concern in America about moisture in lighthouses due to the great variability in temperature and humidity across the country. Professor Henry used the ideas of Michael Faraday in England along with his own research to try to reduce moisture within the lighthouse lantern



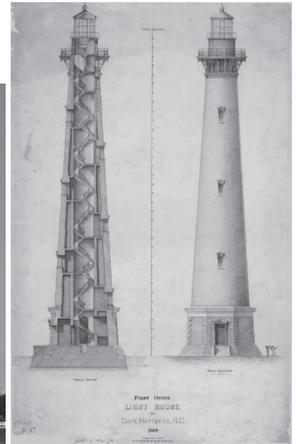
Tybee Island lighthouse
1867_Georgia_44m



Assateague lighthouse
1867_Virginia_43m



Saint Simon Lighthouse
1872_Georgia_32m



Cape Hatteras lighthouse
1870_North_Carolina_64m

資料5 アメリカの二重壁構造の灯台

and within the tower itself.

It was very common for tall lighthouse towers to have double walls after about 1865 for moisture protection.

We had a very low concern about earthquakes as they occur almost exclusively on our west coast. Our lighthouses on the west coast were all originally made very short and of wood or brick construction (see attached). We built only a few tall towers on the west coast and the cavities in the walls were smaller for strength, but were there only for moisture protection.

Thomas Tag

Technical Advisor

US Lighthouse Society

(拙訳)

1852年以前、すべてのアメリカの灯台は、木材、石材、或いは堅固な壁を備えたレンガで造られました。アメリカの灯台委員会は、1852年に設立され、ジョセフ・ヘンリー教授がその科学顧問でした。アメリ

カでは、各地で温度と湿度が大きく変動するため、灯台の湿気について大きな懸念がありました。ヘンリー教授は、イギリスのマイケル・ファラデーの考えと彼自身の研究を使用し、灯台の灯籠と灯塔の湿気を減らそうと試みました。

高い灯台の灯塔は、1865年頃から防湿のために二重壁を持つことは非常に一般的でした。

地震はほぼ例外なく西海岸で発生するため、地震に対する懸念はなく、西海岸の灯台はすべて、もともと非常に低く、木造またはレンガ造で建設しました。西海岸に数基だけ高い灯台を建設しましたが、防湿のためだけにある壁の空洞は、強度のために小さくなりました。

トーマス・タグ

技術顧問

アメリカライトハウス協会

イギリスやフランスの灯台にはない灯台の二重壁構造は、御前埼灯台工事開始のわずか数年前にアメリカで一般的に採用されていたようです。それは強度のためではなく防湿の目的でした。日本もジョセフ・ヘン

リー教授が懸念していた温度と湿度の変化が大きい地域です。

御前埼灯台は、日本で最初に二重壁構造で建てられた灯台です。その後、明治期の大型灯台に次々と採用されていくこの特徴的な構造は、果たしてアメリカから輸入されたものだったのでしょうか、日本でも防湿の目的はあったのでしょうか、ジェームズ・マクリツチに聞けば、その真相は教えてくれるのでしょうか。

老灯台長夫婦の悲哀

前記の見尾火燈明堂や燈明台に関する下村文書もんじょの記録を、燈光誌上で最初に取り上げたのは、冒頭でも紹介した大正14年9月号の「御前埼燈臺沿革とうたい」です。著者は、当時御前埼灯台長であった森茂氏（写真7）で



写真-7 森茂灯台長
(燈光昭和4年6月号 看守
長事務協議会記念写真より)

す。大正11年から昭和4年まで7年7ヶ月の異例の長期在籍記録が残る灯台長でした。

森灯台長夫妻に関する回顧談が、御前埼灯台の史料集「みおつくし 御前埼燈臺」（昭和61年5月発行）に次のとおり見られます。

大正初期の方々ならきつと、森茂、森てると言った名前は記憶して居られる人々が多かろうと思う。それは「ご主人の灯台長さんよりは、むしろ奥さんの「てる先生」の方が覚えて居る人が多いだろう。それは「てる先生」は和装が得意であった関係で、村の小学校の裁縫の先生をして居た。いつも和服をきちんと着て紺色の袴をはいて、つんとすまして通って居た。勿論此の時分にはバスが有る訳ではなく歩いて通って居た。時には女生徒達と一緒に話しながら登校して居た事もあった。此の「てる先生」に裁縫を教わった者も既に古希の年代になって居る者が多く、随分と昔のことになってしまった。

森茂灯台長御夫妻の間には子宝が恵まれなかった。一切が満ち足りた日常の暮らしのように見受けられたものの、子供の「面では心を痛めて居た事であったでしょう。そこで、森さんは日頃から懇意にお付き合いを

して居る坂本忠兵衛氏（忠氏の曾祖父）に心当たりの娘の世話を頼んだのである。早速、坂本氏は当時灯台御用便をして居た松林半右工門氏（忠夫氏の祖父）と「あの娘、この娘」と選んだのである。そこで、第一候補に挙げられたのは、松林武七氏の孫娘千代さんで有った。當時を思い起して千代さんはこう語ってくれた。

「私は小学校六年を卒業、高等一年を修業して同級の人達より一年遅れて、榛原女学校に入学したが当時のことは、はつきりと記憶して居る。森家と私の家との仲立ちの御世話をしてくれた坂本さんの間で、養女縁組の話はほとんどん拍子にまとなり、森家を坂本さんが、武七家を隣の半右工門さんがお世話人の労を取ってくれた。それから私は灯台の娘と言うことで寝泊まりは灯台の方にした。日曜日には時々家の方に泊まった。そうして居る間にも養父母は、私をあれこれ可愛がってくれて、学用品から身の廻りのものなど色々を買って呉れた。然し籍はまだ入って居なかった。養母は手の利いた人で和裁は得意の様でした。小学校でも裁縫を受持つて居た。又オルガンをよく弾いて居た。三大節などの式の時のオルガンは、いつも養母が弾いて居た。

身ぎれいにする人で、生活の上でも何事につけても、

きちんと整理されて居て、私にも色々と教えてくれた。そうした幸せな日々が続いて居たが、突然私の三才になった弟が急病で亡くなったのでした。そうした悲しみの中で私があちらこちらと、灯台の養父に連れられて歩くと、姉一人が家に残るだけで淋しくなってしまうので、折角の話でしたが水に流してもらい、実家に戻ったのでした。養父母が和歌山県の市江崎の灯台に転勤して行く時にも私は学校へ行って居ました。それは養父母達の申出によつての気配りだと後で聞かされました。別れがたらくなるからとの計らいで、出発に先立つて袂かに別れをして居てくれたそうです。

それから後もずっと手紙のやりとりは続けて居ましたが、それもいつとは無しに途絶えてしまいました。もうきつと御二人共に地下に眠って居られる事でしょう。」

と、千代さんはいかにも懐かしげに思い出を語ってくれた。

森茂氏の御前崎灯台での異例の長期在籍は、てる先生が関係しているように思われます。燈台公報の人事異動記録を見ていくと、森氏は昭和4年12月4日付で市江崎灯台長、そして同7年2月に隣接の紀伊日御崎

灯台長を最後に、同8年9月に退官しています。燈光昭和8年10月号には、森氏の退官について「元勲が去って秋は淋しい」と特筆されています。

退官間もない老灯台長夫婦が、御前埼での束の間の幸せなひと時を胸にしまい、人里離れた淋しい市江崎灯台へと異動していたことは、それが使命とはいえ、どんなにつらく悲しい思いをされたか計り知れませんが、この回顧談を知ってから森灯台長が写る昭和4年の燈光の写真（写真7、8）を見るたび、その顔が愁いを秘めた悲しげな表情に見えてなりません。

（明治の灯台の話72 御前埼灯台（前編））



写真－8 賀陽宮殿下御前埼臨台
（3列目右から2番目が森茂灯台長 燈光昭和4年7月号）

まちをあげての誘致活動実る
〃 灯台遺産〃 神威岬灯台

第一等不動レンズが帰郷 〓 日本に1基現存〓

北海道積丹町商観光課

町内産業経済団体がその力を結集して取り組んだ「神威岬灯台第一等不動レンズ」里帰り構想。令和元年から3年間に及ぶ構想実現活動が実を結び、かつて「魔の海」と呼ばれた海上交通の難所を照らし続けた灯台レンズが約60年ぶりに神威岬に帰ってきました。町の新たな観光資源、そして灯台守の苦難と地域と



写真1 国内唯一現存の第一等フレネル式不動レンズ

の絆の歴史を現在いまに繋ぐ歴史的資源として実現した灯台レンズ里帰りの歩みを振り返ります。

力を合わせて夢を実現〓 町地域活性化協議会

灯台レンズ里帰りの実現には、積丹町地域活性化協議会（代表・杉山覚(株)積丹観光振興公社社長・構成・産業経済等8団体及び町）の異業種の垣根を越えた活動の努力がありました。令和元年5月の総会で、小樽海上保安部から神威岬でかつて使用されていた第一等不動レンズの存在と、当時展示されていた大阪の鉄道会社運営の「みさき公園」が閉鎖により、同レンズ所有者の（公社）燈光会（東京都）が今後の用途と保管場所の検討を行っている情報が寄せられました。

協議会では同11月に燈光会を訪問し、灯台レンズ里帰りの要望書を提出。また灯台を所管する国土交通省

海上保安庁(東京都)を訪問し里帰り活動への支援を要請しました。

こうした活動が実現、令和3年4月には積丹町が燈光会と灯台レンズ無償貸借協定書を締結。同7月には大阪からの一時保管場所(犬吠埼灯台・千葉県銚子市)からトラック輸送により、神威岬自然公園内の「カムイ番屋」2階に搬送。令和4年3月には同レンズの組立・設置が完了し、約60年ぶりの里帰りの夢が果たされました。

134年の記念日に里帰りを祝う記念式典

神威岬灯台初点灯の日から134年目を迎えた去る8月25日には、灯台レンズの里帰りを祝う記念式典が挙行され、町議会議員のほか、岩崎第一管区海上保安本部交通部長、萩中小樽海上保安部長、石田燈光会専



写真 カムイ番屋2F 展示風景

務理事らが来町され、貴重な灯台資源の新たな門出を祝いました。

また、当日は翌日の一般公開に先立ち、灯台守の苦難の歴史を伝える新たな展示施設の内覧のほか、同式典に合わせ神威岬灯台を題材とした町内小中学生の絵画コンクールや、小樽海上保安部による神威岬灯台展望塔の一般公開が行われました。

全国で積丹にひとつだけ

第一等不動レンズとは

国内に唯一現存する「第一等不動レンズ」はフランスのソーターハーレー社製のフレネル式・六面構成レンズで、フランスより明治9(1876)年頃に輸入され宮城県の高山山灯台で使用された後、大正12(1923)年から37年間、神威岬灯台の二代目レンズとして約43キロメートル先までの神威岬沖を照らし続けたもので、高さ約3メートル、直径約1.8mとレンズの等級(※)の中で最大です。

灯台レンズの組み立ては、現在国内で唯一とされる(株)大洋機械製作所(横浜市)の熟練の技術者たち3人が3日間を費やす大作業で、ガラス製レンズの性質上、作業中にボルト一本落下させることの出来ない極めて

慎重な作業が求められました。

灯台レンズは、町の第三セクターで協議会構成員の株ベニンシユラの管理下で式典翌日の8月26日から一般公開されています。

※レンズの等級

レンズの焦点距離の長さにより「第一等」から順番に「第六等」、第六等よりも小さい「等外」までの7等級があり、灯台の重要度や必要な光達距離によって設置するレンズの等級が決められています。

「灯台守と余別村住民の絆」

苦難の歴史を伝える

■「断崖絶壁」の暮らしと 悲しい事故

展示施設は、厳しい岬の先端、文字通り「陸の孤島」で灯台の光を守り続けた「灯台守」達の苦難の歴史を



写真 灯台守が暮らしていたかつての神威岬灯台の事務所・住宅

現在に伝えます。

昭和35（1960）年に神威岬灯台が無人化されるまで、あの断崖絶壁の官舎で生活していた灯台守とその家族は、現在のような遊歩道が整備されていない馬の背のような尾根を歩いて海岸へ降り、波待ちをしなから岩場を伝って余別村へ買い出しに向かう厳しい条件下で生活していました。

大正元（1912）年10月、灯台守の草薙灯台長夫人と1歳の長男を連れた土屋補助員の夫人の3人で余別村へ買い出しのために岩場伝いに歩いていたら、ワクシリ岬で突然の荒波に襲われ亡くなる事故が発生。このことに心を痛めた余別村の村民たちが海難事故を悼んでトンネルの掘削を決意。しかし、当時の測量・開削技術の未熟さから岬の両側から掘り進む際にずれが生じてしまい、一時工事を中断したものの、殉難者たちへの供養を込めた念仏を唱えて鐘を打ち鳴らしたところ、掘り進む方向が分かり、大正7年遂に「念仏トンネル」が開通に至ったという歴史が残っています。

半島最先端の厳しい環境下でありながらも、他者への思いやりを大切にする村民の姿は現在の閉塞感漂う社会情勢下に暮らす私たちにとっても学ぶべき史実で

す。

私たちはこの灯台レンズの帰郷を単なる観光資源としてではなく、灯台守と余別村住民の絆を伝える歴史文化資源の一つとして後世に伝えていく役割を担っています。

■110年の歳月を経て新たな事実も

灯台レンズ展示室の完成が近づく今年5月のある日、土屋補助員夫人の道外のご親族から遠い昔神威岬の灯台守だった祖先のルーツを辿る熱い思いを込めた情報が役場商工観光課に寄せられました。土屋補助員夫人の子が二男ではなく長男で、事故時は3歳ではなく1歳であったという新たな事実でした。

当時の年齢が数え年であったことや、海難事故により1年後に死亡が確定されたことによるものと考えられます。大正元年10月29日、その日は天皇誕生日の祝品を買うために余別村に向かったと伝えられており、当時の時代背景の中で国の職員の職責を支える家族の一員が、危険な天候・海況を承知の上で1歳の赤ん坊を背負って出かけざるを得なかったと推察すると胸が詰まります。

令和4年10月29日は、その悲惨な灯台守の海難事故

の日からちょうど110年目の命日となり、不思議な歴史の縁を感じます。

〈新たな使命を担う〉 積丹町の誇る「神威岬」

神威岬自然公園は、平成29年「恋する灯台」の認定、平成30年政府の「観光を通じたインフラの活用」の重点公的登録施設の一つ（全国3箇所）として認定された神威岬灯台を有し、観光資源としての更なる期待が高まっていますが、今回、貴重な「灯台遺産」の一つが新たに加わりました。

年間約30万人が訪れるこの自然公園にとって、第一等不動レンズは積丹町の歴史を伝える新しい「使命」を担うことになり、それは同時に積丹町にとって新たな活躍の舞台を得たということにもなります。

町民の想いを一つにして実現したまちづくり活動の歴史的価値と、積丹町が誇る岬の景観をいつまでも大切にし、後世に繋いでいきたいと思います。

（広報しゃこたん令和4年10月号から転載）



四 管 区

3年ぶりに開催「島っ子ガイド フェスティバル」への業務協力

鳥羽海上保安部(滝田浩司保安部長)は、令和4年11月5日に3年ぶりに開催された三重県鳥羽市の離島菅島で行われる「島っ子ガイドフェスティバル」に地域連携の一環として、業務協力を行いました。



菅島灯台

通称「島っ子ガイド」は、菅島小学校の児童が島外の人に菅島の魅力を伝えるものであり、そのガイド先の一つに今年9月に重要文化財の指定をうけ、来年初点灯から150周年を迎える菅島灯台も入っています。

当日、チャーター船で菅島に到着すると「島っ子ガイド」児童一同「ようこそー菅島へー」と大変元気なお出迎えに鳥羽海上保安部職員含め参加者一同感銘を受けました。



お出迎えする島っ子ガイド一同



菅島灯台を説明する児童

菅島灯台では「島っ子ガイド」児童が、同灯台の歴史の説明や菅島灯台の歌を披露し、参加者からは拍手が沸き上がります。



お見送りする島っ子ガイド一同



国産最古級レンガ

した。

菅島灯台の内部公開は、3年ぶりの開催となったため初めて灯台に入る「鳥っ子ガイド」児童は、感動する半面、勾配の急な階段に怯える場面もあったが全員上り、踊り場の景色を楽しんでいました。

また、同灯台内部では、国産で最古級の灯台レンガを灯台と同じイギリス積み状態で展示しており、ツアー参加者も関心を寄せていました。

「鳥っ子ガイドフェスティバル」が終了し、離島する際には児童一同から「また来てねー！」と防波堤先端の灯台まで走ってきて呼びかけを受け、最後まで熱い見送りを受けました。

菅島はこころ暖かい島でした。

(鳥羽海上保安部)

名古屋保安部長

四十数年ぶりに母校を訪問

公益社団法人燈光会が主催した「灯

台絵画コンテスト2022」の入賞者に対し、保安部長が受賞の伝達を行いました。

名古屋海上保安部の管轄地内で、中学生の部と小学生低学年の部のそれぞれで銅賞1作品が選ばれており、その中の1校が、保安部長が卒業した小学校でもある「美浜町立布土（ふつと）小学校」の生徒の作品でした。保安部長にとっては、大先輩から年の離れた後輩に表彰を伝達するという思わぬ形

で母校を訪問することとなりました（奇跡1）。

実は、受賞者の横田さんは、絵画教室に通っていて、多くのコンクールに応募し入選をされており、先日は、環境省の「防災コンクール」に応募した作品が入賞し、大臣とオンラインでお話した強者でした。

伝達式には、横田さんのおかあさんと横田さんが通う絵画教室の先生もお祝いに駆けつけてくれ、その雄姿を写



小学生低学年の部 銀賞受賞
横田雪乃さん



記念撮影

左から 杉浦名古屋保安部長、横田さん、横田さんお母様、絵画教室先生、布土小学校石川校長先生



昔話に花が咲く

そして更なる奇跡が、布土小学校の校長先生と保安部長が、中学校・高等学校の同級生であったということ（奇跡2）と、絵画の先生が、犬の散歩で保安部長の実家近くを通るほどのご近所であったことです（奇跡3）。思わぬ再会もあり、昔話に花が咲き懇談が盛り上がったことは言うまでもありません。

（名古屋海上保安部交通課）

・ ・ ・ 十 管 区 ・ ・ ・

笠利埼灯台60周年ラジオ工作教室
 奄美の皆様へ感謝を込めて

奄美大島最北端の海のみちしるべ笠利埼灯台は、今年で60周年を迎えました。これは、奄美の皆様のことまでの海上保安業務へのご理解とご協力の賜物と、感謝を込めて、10月9日ラジオ工作教室を開催、奄美の小学生31名と保護者が参加しました。



工作に夢中の小学生



海上保安部長挨拶

真に収めていました。保安部から受賞のお祝いとして、保安協会のグッズと作品の複製を額に入れて差し上げたところ、横田さんは大変喜んでいました。「おじいちゃん、おばあちゃんが小さい頃から親しんでいた野間埼灯台を描いた絵が、入賞できるなんてびっくりしました。これからも灯台を大切にしていきたいです」とコメントをいただき、改めて野間埼灯台が地域の人達に愛されていることを感じました。



子供以上に懸命に工作する記者



ラジオの音が聞こえて親子で笑顔



ラジオが完成し満面の笑み (午前の部)



ラジオが完成し満面の笑み (午後の部)



完成したラジオ

ラジオ工作で、海上保安業務でも使われる電波への興味をきっかけに、海上保安庁を少しでも知って関心を持って、将来大きくなったら、故郷、奄美

のきれいな海を守る海上保安官になってもえたら、私達はとても幸せです。工作教室は、日本航路標識協会や日本無線(株)のボランティアスタッフと海上保安部職員のサポートで行いました。「電波とは何？」の解説、そして、ゴーグルや半田ゴテなどの安全具や工具の使い方の説明を行いました。いよいよ工作開始、子供達がラジオキットの箱を開くと、「ホントに作れるの?」「え〜難しそう!」の声の上

がりました。アンテナのコイル巻きや部品の取付けを始めると、一転、工作教室は真剣な雰囲気になりました。完成して、ラジオから音が聞こえると、満面の笑み、イヤホンに耳にあて、地元のFM放送などを夢中で聞き入りました。奄美海上保安部は、地域の皆様との絆を大切に、安全安心に努めます。日本航路標識協会と日本無線(株)のボランティアスタッフの皆様のご協力に深く感謝いたします。(奄美海上保安部)

与論島の航路標識監視協力者へ

感謝状伝達

〳外海離島の海の安全への 貢献に感謝を込めて〵

11月1日の灯台記念日、奄美海上保安部は、与論島の与論港の海のみちしるべ与論港供利指向灯の灯火監視協力者、武東タツ子さまへ、第十管区海上保安本部長の感謝状を伝達しました。武東さまは、2007年11月1日に奄



伝達



左から、ご令嬢・武東さま・副町長

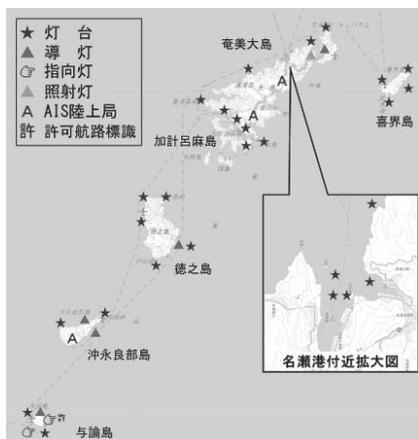
美海上保安部長から指向灯の監視を受託、15年間に亘り、与論港の安全に貢献されてきました。

感謝状は、与論町の町長室で武東さまの御令嬢と与論町副町長の立会いのもと伝達、新聞1社と与論町広報誌の取材も行われ、翌日の新聞で広く報道されました。

外海離島である奄美群島では、燃料や食料などの生活必需品の安定供給には船舶による海上輸送が不可欠で、

与論港は、タンカー、貨物船や定期フェリーが寄港可能な与論島唯一の港です。また、奄美群島の38の航路標識は、6つの離島に点在、これらの適切な管理や台風通過後等の被害の把握と迅速な復旧には、監視協力者が不可欠です。これまでのご協力への感謝を込めて感謝状を伝達、引き続きのご協力をお願いします。

(奄美海上保安部)



奄美群島の航路標識の配置

**工事作業等の警戒船講習会を開催
（海域の海上交通安全のために）**

11月11日、奄美市の奄美文化センターで、工事作業等の警戒船講習会を開催しました。講習は、港湾や空港などの海上工事と測量や潜水調査などの海上作業での、警戒業務の総合管理（管理講習）と具体的な警戒船の運航と専従警戒要員の業務内容（業務講習）などに関する講習

で、工事作業で占有する海域の海上交通の安全に不可欠です。奄美群島地区では新型コロナウイルス感染症の感染拡大で3年振りの開催、群島内外から管理講習に34名、警戒講習に35名の延べ69



講習会の様子



3年ぶりの総合管理の説明



初めての海上交通三法の説明

名が受講、感染症対策をとったWithコロナでの開催でした。

（奄美海上保安部）



灯台ワールドサミット in 御前崎の開催

灯光会事務局

去る令和4年11月5日（土）、静岡県御前崎市において、灯台ワールドサミットが開催され、当会も後援者として参加しましたので、その概要を紹介します。

1 はじめに

灯台ワールドサミットは、灯台を観光資源として活用していくため、情報の共有や議論を通じて、灯台の文化的な価値を再発見・確認し、連携して灯台観光を通じて地域の活性化を図っていくこうとするもので、灯台150周年という節目の年に、志摩市の呼びかけにより、参観灯台のある千葉県銚子市、静岡県御前崎市及び島根県出雲市が参画する形で「灯台活用推進市町村全国協議会」が発足し、この4市が毎年持ち回りにより開催することとなり、第1回目が、平成30年11月に志摩市で、第2回目が翌令和元年11月に銚子市で開催されました。

続く第3回目として、令和2年に御前崎市で開催される予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により延期となり、今年度、ようやく3年ぶりに開催の運びとなりました。（写真1）

御前崎市でのワールドサミットは、御前崎B&G海洋センターをメイン会場、御前崎灯台をサブ会場とし



写真1
灯台ワールドサミット in 御前崎
ポスター

て開催され、メイン会場では、灯台シンポジウムと地域特産品博が、サブ会場においては、御前埼灯台の一般公開とガーデンカフェが実施されました。それぞれの会場における主なイベントの状況は次のとおりです。

2 イベントの実施状況

〔メイン会場（御前崎B&G海洋センター）〕

メイン会場では、午前中、「灯台を楽しむイベント」として、灯台を「観て」、「聴いて」、「作る」プログラムが実施されました。（写真2）

オープニングは、「観て」楽しむプログラムということで、「迫力のドローン映像を見てみよう」と題して、映像作家の竹内佳嗣氏による灯台の空撮映像作品が、竹内氏自身の解説により紹



写真2 満席となったメイン会場

介されました。

竹内氏は、地元静岡県出身で、プロの映像作家として世界各地を巡り、ドローンを使った風景動画を制作されていますが、ここ数年、自然の中にたたくずむ灯台の存在感に魅せられて、灯台をモチーフにした作品を手掛けるようになったとのことでした。

そのきっかけのひとつとして、当会のホームページに掲載されているドローン映像（一般会員、丸山胤幸氏提供）に感化されたと言っておられました。

続いて、「聴いて」楽しむは、「灯台どうだい？」編集長、不動まゆう氏により「御前埼灯台の父R・H・ブランドンと母国スコットランドの灯台」と題するオンライン講演が行われました。

不動氏は、ブランドンが日本で灯台の建設にあたった経緯や技術的内容を自らが撮影されたスコットランドの灯台の写真を用いながら分かりやすく解説され、昨年度、国の重要文化財に指定された御前埼灯台の歴史的・文化的価値の高さを改めて認識させられる内容でした。

最後に「作って」楽しむは、当会から灯台ペーパー



写真3
第三管区海上保安本部による
灯台絵画コンテスト入賞作品の展示



写真4
灯台ファンの注目を集めた燈光会ブース

クラフトについての紹介として、当会ホームページに全国約250基にのぼるペーパークラフトの型紙が掲載されていることや、作り方のコツを説明しました。

当日、燈光会や第三管区海上保安本部のブースに用意した御前埼灯台等のペーパークラフトの型紙が底をつきましたので、多くの来場者に興味を持っていただけたのではないかと思います。

「作って」楽しむについては、特設会場で日本航路標識協会によるラジオ工作教室も開かれ、子供たちが使い慣れていない半田ごとと格闘しながらマイラジオの製作を楽しんでいました。

メイン会場の室内には、客席を囲むように参加自治体、関係機関等による展示ブースが設置され、来場された方々が講演の合間に興味深そうに見入っていました。

第三管区海上保安本部のブースでは、業務紹介や歴史的灯台に関するパネルに加え、灯台絵画コンテスト2022の入選作品の展示が行われました。(写真3)
当会も、一角にブースを出展し、のぼれる灯台16の紹介や灯台グッズの展示を行いました。(写真4)

一方、会場の外では、「おらがまち自慢の地域特産品博」と称する物産展が開かれ、参観自治体等の名産品が入手できるとあって大変な賑わいとなり、地元御前崎市の御前崎クエ汁については、長蛇の列ができていました。

また会場に登場した「うーみん」と御前崎市のマスコットキャラクターの「なみまる」は、記念写真を撮る親子連れの人気の的となり、イベントの盛り上げ役として大活躍でした。(写真5)

午前中の「楽しむ」イベントで会場が柔らかく盛り上がったところで、午後からはメインイベントとなる

シンポジウムの開催
となりました。

今回の灯台ワール
ドサミットの主催者
である御前崎市の柳
澤市長の開会挨拶で
始まり、参加自治体
の志摩市の橋爪市
長、銚子市の越川市
長、出雲市の井上副
市長に加え、オプザ
ーバーで参加した男
鹿市の菅原市長が紹
介されました。(写
真6)

続いて、本サミッ
トの後援者であり、
来賓として参加した
海上保安庁交通部企
画課の江原課長、公
益社団法人燈光会の



写真6 開会挨拶をする御前崎市長

右側前列は来賓として登壇した海上保安庁
江原企画課長、燈光会岩崎会長、日本航路
標識協会深谷会長



写真5

親子連れに大人気の
「うーみん」と「なみまる」

岩崎会長、そして一般財団法人日本航路標識協会の深
谷会長がそれぞれ祝辞を述べました。

また、海外からのお祝いのメッセージとして、日本
航路標識協会の重松調査役により、インドネシアのプ
レー灯台の所長からのビデオメッセージが披露されま
した。

そしてシンポジウムは、いよいよ核心へと進み、灯
台活用のあり方について議論するパートへと入ってい
きました。

まず初めに、参加4市による灯台自慢と観光資源化
の活動状況の発表が行われました。

各市の市長、副市長自らがプレゼンターとなり、用
意した画像、映像を用いて地元の観光案内とともに灯
台の紹介が行われました。

各市、趣向を凝らした内容で、市の代表者として熱
く発表する様子は、まさにトップセールスに相応しく、
大変見応え、聴き応えがありました。(写真7)

次に、東京で開催されている日本財団主催の「海と
灯台サミット2022」の会場とオンラインで結んで、

灯台の今後を考える
スペシャルトークセ
ッションへと進み、
不動まゆう氏とフラ
ンスの灯台活用に関
する有識者であるヴ
アンサン・ギグノー
氏による、「世界
の灯台はどこに向か
うのか？」と題した
対談の様相が中継さ
れ、欧米を中心とし
て灯台の観光施設と
しての活用例などが
紹介されました。

サミット最後のプ
ログラムは、先ほど
灯台自慢を繰り上げ
た4市の市長、副市
長に特別参加の男鹿
市長と映像作家の竹



写真8

参加4市の代表者と男鹿市長及び映像作家の竹内氏が参加して行われたパネルディスカッション



写真7 参加4市による「灯台自慢」

志摩市には参観灯台が2つもあると語る
橋爪市長

内氏が加わり、「全国に灯台ブームを起こそう！」と題して「首長集結！パネルディスカッション」が行われました。（写真8）

新型コロナウイルス感染症の影響で大きなダメージを受けた観光事業の復活のため、観光資源として灯台の持つ潜在能力を最大限発揮させる取り組みが必要との共通の認識の下で、これまで灯台は、景色の美しいところ、眺めのいいところというイメージで多くの観光客が来ていたが、これからは灯台の持つ歴史や地域社会との結びつきなどを知ってもらったり、周辺の観光施設と複合的な魅力発信するような行事を計画したりといった、オンリーワンの価値を高めていく必要があるといった意見や、最近のSNSの普及拡大を踏まえて、インスタ映えするスポットや、アニメキャラとのコラボなど、広い年齢層に興味を持ってもらえるような企画を展開したいといった提案もありました。

以上でシンポジウムのプログラムはすべて終了し、最後に御前崎市長からシンポジウムの内容を総括する「御前崎宣言」の発表があり、続いて、来年の開催地である出雲市の井上副市長の閉会宣言により幕を閉じ

ました。(写真9)

会場は、引き続き交流会の場となりました。

本来は、立食のパティが行われる予定でしたが、感染予防のため、アルコール飲料抜きの茶話会となり、御前崎市特産のお茶「つゆひかり」と各市が持ち寄った茶菓子がふるまわれました。(写真10)

舞台上では、各市からの参加者によるミニアトラクションが行われ、ローカル色豊かな地元紹介で、場内が盛り上が



写真10

交流会で歓談する御前崎市長（中央左）と燈光会会長（中央右）



写真9

閉会宣言を行う出雲市（次回開催地）の井上副市長

りました。(写真11)

〔サブ会場（御前埼灯台）〕

メイン会場でシンポジウムが開催されている間、サブ会場の御前埼灯台においては、灯台ワールドサミットに合わせた特別一般公開として、清水海上保安部により、10時から16時までの昼の部と16時30分から20時までの夜の部の2部構成で実施されました。

これに合わせて、地元の市民グループ「御前埼灯台を守る会」により旧灯台官舎内の灯台資料館の公開が行われるとともに、灯台前面の広場「ウミエール」周辺では、地元の小学生が製作した竹を使った灯籠アート（写真12）や祭車（御殿屋台）の展示、お囃子の演奏が行われました。

日中はガーデンカフェも出店し、こちらでも観て、聴いて、食べて満足できるイベントが開催されました。



写真11

「なまはげ」とともに会場を盛り上げる男鹿市の菅原市

当日は、前日まで吹いていた強風も止み、静岡県最南端の御前崎らしい温暖なイベント日和とあって、日が暮れてからも来場者が次々と訪れ、普段体験できない夜の灯台に上ってみようと、夜間公開の入場待ちの長い列ができていました。

この日の一般公開には約9000人の来場者が訪れましたが、その半数が夜間公開の時間帯ということで、穏やかな天気にも恵まれたことと、地元との連携による周知が効果的であったことが多数の来場者に繋がったと考えられますが、並んででも夜の灯台に登ってみたいというニーズがあることに驚かされました。

3 むすび

今回の灯台ワールドサミットについては、新型コロナ



写真12

夜間公開が行われた御前崎灯台と展示された竹を使った灯籠アート

ナウイルス感染症の影響で、3年ぶりの開催であることや、準備に追われる時期に第7波が来襲するなど、主催関係者には開催可否の判断、あるいは内容の見直しなど、大変ご苦労が多かったことと思いますが、無事開催されたことに心より感謝申し上げます。

灯台参観については、戦後の旅行ブームの昭和40年代から50年代にかけて、全国で年間150万人を超える参観者が訪れ、灯台周辺のお土産物店等も大変賑わった時期がありました。その後、観光客の旅行形態が団体旅行から個人旅行へと推移し、また旅行の目的も多様化したことなどにより、参観者数は年々減少し、現在はピーク時の半分程度で推移しています。

こうした現状を踏まえつつ、今回の灯台ワールドサミットにおいては、参加各市の市長、副市長から、地元ならではの特性を活かして、新たな魅力づくりに取り組み、灯台を再び地域活性化の素材として活用していくといった決意が示され、大変心強く感じられました。

当会としても、引き続き地元自治体等と緊密に協力・連携し、地域振興のお役に立てるよう努めて参りたいと思います。

第12弾

のほねる灯台(16基) スタンプラリー達成者



全国北から南までの16灯台巡っていただき、誠にありがとうございました。
達成者の皆様、おめでとうございます！

第83号

SHUN 様(40歳)愛知県在住

- ☆ スタンプラリー開始年月日 令和1年5月11日 潮岬灯台
- ☆ スタンプラリー達成年月日 令和4年8月28日 尻屋崎灯台
- ☆ スタンプラリーを始めたきっかけ
潮岬灯台でスタンプラリーが始まったのを知ってから。海岸沿い
日本一周を目指していたので、同時に巡れて良いと思ったから。
- ☆ 16か所巡った感想
尻屋崎以外は2019年内に制覇していたが、尻屋崎のみ強風、コロナ等
で開いておらず、なかなか来れず(青森には3、4回来ていた)よう
やく来れて達成!! 嬉しいです!

第84号

坂本 幸博 様(41歳)埼玉県秩父市在住

- ☆ スタンプラリー開始年月日
令和4年5月28日 残波岬灯台
- ☆ スタンプラリー達成年月日
令和4年8月28日 出雲日御碕灯台
- ☆ スタンプラリーを始めたきっかけ
残波岬灯台で知ったので始めた。
- ☆ 16か所巡った感想
灯台からの景色が素晴らしかった。



第85号

河本 浩光 様(33歳)東京都在住

- ☆ スタンプラリー開始年月日 令和3年12月5日 残波岬灯台
- ☆ スタンプラリー達成年月日 令和4年8月28日 尻屋崎灯台
- ☆ スタンプラリーを始めたきっかけ ポスター
- ☆ 16か所巡った感想 普段行けない観光地に行ける契機になりました。

第86号

鶴亀 様(20代)兵庫県宝塚市在住

- ☆ スタンプラリー開始年月日 令和3年11月18日 出雲日御碕灯台
- ☆ スタンプラリー達成年月日 令和4年9月7日 都井岬灯台
- ☆ スタンプラリーを始めたきっかけ
もともと日本一周を考えていて、出雲日御碕でスタンプラリーの存在を知ったので。
- ☆ 16か所巡った感想
尻屋崎の冬季閉鎖や、都井岬の工事などで思うように周れなかった所もありましたが、初島や宮古島に行くきっかけにもなり、楽しかったです。達成感もひとしおです！

第87号

角田 弘之 様(50代)千葉県船橋市在住

- ☆ スタンプラリー開始年月日 令和3年5月15日 野島崎灯台
- ☆ スタンプラリー達成年月日 令和4年9月10日 尻屋崎灯台
- ☆ スタンプラリーを始めたきっかけ 登れる灯台に興味があった。
- ☆ 16か所巡った感想
全箇所すばらしい景色と灯台でした。厳しい自然環境のなか、長年にわたり灯台を守ってこられた方々に尊敬と感謝申し上げます。大変だと思いますが、もっと登れる又は見学できる灯台を増やしてください。是非、訪れたいと思います。

第88号

森田 一樹 様(59歳)神奈川県在住

- ☆ スタンプラリー開始年月日
令和3年11月8日 潮岬灯台
- ☆ スタンプラリー達成年月日
令和4年9月10日 犬吠埼灯台
- ☆ スタンプラリーを始めたきっかけ
スタンプ帳を買って、スタンプを押しているうちに全て集めなくなった。
- ☆ 16か所巡った感想
どこも大変良い灯台でした。絶景で感動しました。



岩岡 篤 様(60代)神奈川県横浜市在住

- ☆ スタンプラリー開始年月日 令和3年11月20日 観音埼灯台
- ☆ スタンプラリー達成年月日 令和4年9月14日 尻屋埼灯台
- ☆ スタンプラリーを始めたきっかけ
150周年灯台カードを令和3年12月にコンプリートしたのをきっかけに、
2巡目の灯台巡りでスタンプラリーを始めました。
- ☆ 16か所巡った感想
感無量です。

脇本 吉映 様(51歳)東京都目黒区在住

- ☆ スタンプラリー開始年月日
令和2年2月2日 残波岬灯台
- ☆ スタンプラリー達成年月日
令和4年9月16日 尻屋埼灯台
- ☆ スタンプラリーを始めたきっかけ
灯台を見るのが好きだったから。
- ☆ 16か所巡った感想
やっと、コンプリートしました。



かんさん 様(20代)広島県東広島市在住

- ☆ スタンプラリー開始年月日 令和4年2月11日 大王埼灯台
- ☆ スタンプラリー達成年月日 令和4年9月24日 都井岬灯台
- ☆ スタンプラリーを始めたきっかけ
大王埼灯台で本取組を知り、興味をもった。
- ☆ 16か所巡った感想
このスタンプラリーを通じて日本の
様々な景色に出会えました。
とても楽しかったです。

